

地球のいのち、つないでいこう



わたしたちは生物多様性に配慮しています。



# 積水樹脂グループ 環境・社会報告書 2017



*Environmental &  
Social Report 2017*

# CONTENTS

コーポレートガイド	2
積水樹脂グループの理念	2
トップメッセージ	3
企業概要	5
事業概要	7
中期経営計画	9
CSV報告	11
環境報告	17
第6次環境3ヵ年計画 環境活動の取り組み	17
事業・製品による環境貢献	19
事業活動における環境負荷の低減	21
リサイクルへの取り組み	23
SCOPE3への取り組み	24
生物多様性の保全	25
サイトレポート	27
社会性報告	35
コミュニケーション活動	36
社会貢献活動	37
従業員と社内風土	39
労働安全衛生活動	41
品質管理活動	42
経営基盤の強化	43
データ編	45

## 本報告書の対象

### ■対象期間

2016年度

(国内グループ会社は2016年4月1日から2017年3月31日まで)  
(海外グループ会社は2016年1月1日から2016年12月31日まで)

※重要事項については、2016年度以前・以降のものも報告しています。

### ■対象範囲

積水樹脂株式会社および

連結対象の国内・海外グループ会社

※重要事項については、上記以外の海外グループ会社についても対象としています。

## 編集方針

本報告書は、積水樹脂グループの環境・社会活動についてご報告するとともに、環境・社会活動のさらなる向上を目指して、ステークホルダーの皆様とコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。また、本報告書は会社案内も兼ねて作成し、当社グループの理念、事業活動、製品等についても報告しています。

なお、掲載項目については、環境省「環境報告ガイドライン(2012年度版)」を参考にしながら、当社グループの活動に照らして、重要な項目に絞り報告しています。

### 表紙について

表紙では、当社グループにおける実際の環境・社会活動の写真を使用しています。

- ・西の湖ヨシ刈りボランティア(滋賀)
- ・琵琶湖森林づくりパートナー(滋賀)
- ・琵琶湖外来魚駆除活動(滋賀)
- ・森林(もり)の里親(長野)
- ・日本海沿岸松林美観維持活動(石川)
- ・環境コミュニケーション「とんぼ観察会」(滋賀)



#### 道夢道(どうむどう)

積水樹脂には、大規模試験走路「道夢道」と呼ばれる施設があります。これは、交通・景観関連製品などを提供するにあたり、製品の信頼性を確かなものとするために、実際の設置条件のもとで実験を行う施設です。(滋賀県蒲生郡電王町)

## 積水樹脂 グループ の理念

# 積水樹脂グループは、価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献します



## 経営理念

積水樹脂株式会社は、プラスチックと金属、繊維その他の物質とを結びつけた、価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献し、会社の限りなき発展と従業員の豊かな生活を実現する。

## 経営ビジョン2020

『価値ある製品の創造を通じて“世界の安全・安心”“地球環境の保全”に貢献し、世界中の人々に信頼され、感動を提供し続ける企業グループ』を目指します。



「経営理念」のもと、企業の社会的責任を自覚し、企業人としていかに行動すべきかを企業行動指針として制定

## 積水樹脂グループ企業行動指針

### <人権の尊重>

1. 国内・外を問わず人権を尊重し、平等・公平に行動するとともに、従業員のゆとりと豊かさを実現し、安全で働きやすい職場環境を確保します。

### <社会的責任>

2. 顧客のニーズにかなう安全な製品・サービスを提供するとともに、正しい製品情報を適確に提供し、顧客の信頼と満足を獲得します。
3. 公正かつ適正な取引関係の上取引先との信頼関係を築き、相互の発展を図るとともに社会的信頼を高めます。
4. 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示します。

### <法令等の遵守>

5. あらゆる企業活動において法令・社内ルール等を遵守し、公正な企業活動を遂行します。
6. 個人情報や会社の機密情報は厳正に管理します。
7. 政治・行政とは健全かつ透明な関係を維持します。

### <反社会的勢力への対応>

8. 社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは関係を持ちません。

### <社会・環境との調和>

9. 国内・外を問わず、その文化や習慣を尊重し、地域社会との共生を目指します。
10. 環境問題への取り組みは企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、積極的に推進します。

## 積水樹脂グループの総合力により 「社会的な課題の解決」と「企業の成長」の 両立を実現します



代表取締役会長 兼 CEO

福井 彌一郎



代表取締役社長 兼 COO

馬場 浩志

### 積水樹脂グループのCSV

私たち積水樹脂グループは、「価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献する」という経営理念のもと、事業を通じて「社会的な課題の解決」と「企業の成長」の両立を目指して、事業活動を進めております。この取り組みは、CSV(共有価値の創造)の考え方に沿うものであり、当社グループが社会から信頼され、ともに成長する原動力となっております。

私たちを取り巻く社会的課題は数多くありますが、当社グループは公共分野で培ってきた技術や製品を活かして民間分野での課題解決を行うなど、“総合力”を発揮した事業展開を推進しております。

例えば、かねてより交通・景観関連製品の総合メーカーとしてその豊富な製品群を活かし、歩行者、自転車、自動車などあらゆる人・モノが「安全・安心」に通行できる交通環境づくりに向けた総合提案を行っております。そして、近年は、この事業において長年培った技術・製品群を活かし、民間の工場・物流センター内の「安全・安心・環境」対策の提案を積極的に推進しております。

また、当社グループは、「災害に強いまちづくり」に向けた減災・防災対策製品のご提案にも注力しております。阪神・淡路大震災直後から減災・防災に貢献できる製品の研究・開発を本格化させ、これまで様々な減災・防災関連製品を開発してまいりました。現在は、豊富な製品ラインナップとこれまでの研究・開発で培ったノウハウにより、ピクトグラム(図記号)を用いた分かりやすい避難情報の提供や避難路・避難場所整備をまるごとサポートする総合提案を推進しております。

私たちを取り巻く環境は常に変化し、それに伴い社会的な課題も変わっております。当社グループは、このような変化にスピードをもって対応し、事業活動を通じて一つひとつ社会的課題の解決に貢献することで、新たな価値を創造したいと考えており、その実現により社会とともに持続的な発展を続けてまいります。

## 新たな中期経営計画を策定

当社グループは、時代・経営環境が大きく変化する中で、経営理念を補完するべく、私たちの目指すべき姿を明確化し、変化に即した事業経営を行うため「経営ビジョン2020」を2010年に策定し、事業活動を進めております。

2016年度は、「経営ビジョン2020」の実現に向けた3rdステージとして、2020年3月期を最終年度とする新たな「中期経営計画」(4ヵ年)を策定しました。

当社グループの総力を結集し、「基盤事業の進化と総合」「グローバル展開の拡大」「新事業創出」などにより拡大基調を継続し、「複合技術を活かした安全・安心、環境保全に貢献するモノづくり」によって信頼される“Hybrid Value Company”を目指します。

## 社会貢献活動も積極的に

社会貢献活動につきましては、「公益財団法人交通遺児育英会」へ製品の収益の一部を寄付する取り組みや、環境省とともに取り組んでおります「国連生物多様性の10年日本委員会」への支援活動を継続して行うなど、企業としての社会的責任を果たすべく、活動を積極的に推進しております。

今後も当社グループの事業と関連する諸団体と連携し社会貢献活動に取り組んでまいりたいと考えております。

## 全員参加の環境活動

環境活動としましては、中期的な活動計画として「第6次環境3ヵ年計画(2016~2018年度)」に基づき全員参加で環境活動に取り組んでおります。

2016年度の環境負荷低減活動の一つであるCO<sub>2</sub>排出量削減活動においては、生産部門・オフィス部門において、目標以上の成果を達成することができました。

また、環境負荷低減だけでなく、森林保全・びわ湖水質保全活動、地域清掃活動、希少種保全・自然観察会など、事業活動と地域自然環境保全の両立を目指した活動につきましても継続的に実施してまいります。

当社グループは、多岐にわたる社会の要請に応えることにより、社会とともに継続的な成長を実現するべく、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを一層深めていきたいと考えております。

今後とも、貴重なご意見、ご指導をいただければ幸いです。

## 企業概要

世界の“安全・安心” “地球環境の保全”  
に貢献できる企業グループを目指し、  
グローバル展開を進めています

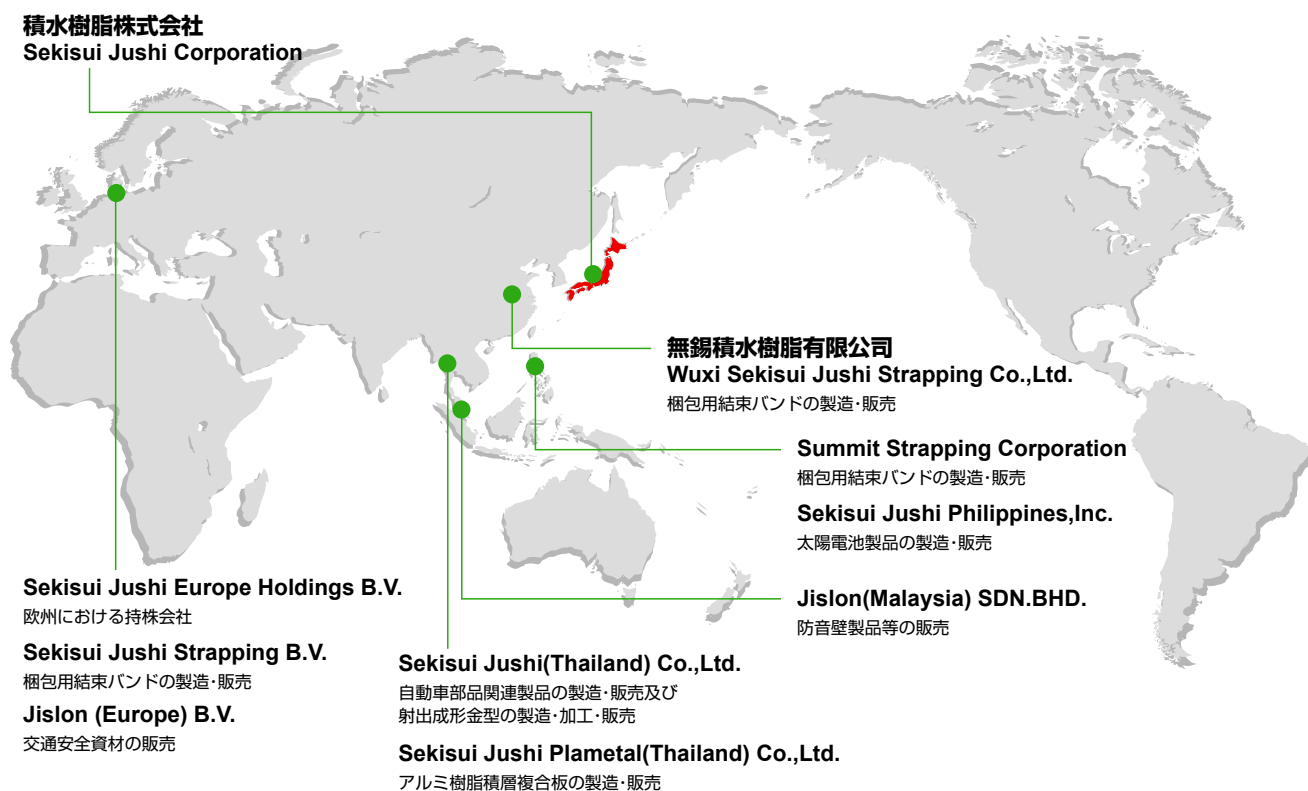
### 会社概要 (2017年3月31日現在)

社名	積水樹脂株式会社
本店所在地	〒530-8565 大阪市北区西天満二丁目4番4号
設立年月日	1954年(昭和29年)11月26日
URL	<a href="http://www.sekisuijushi.co.jp/">http://www.sekisuijushi.co.jp/</a>
資本金	12,334百万円
従業員数(連結)	1,400名
連結対象子会社	28社
持分法適用子会社	2社



### 積水樹脂グループのグローバルネットワーク

#### 海外グループ会社(グローバル)



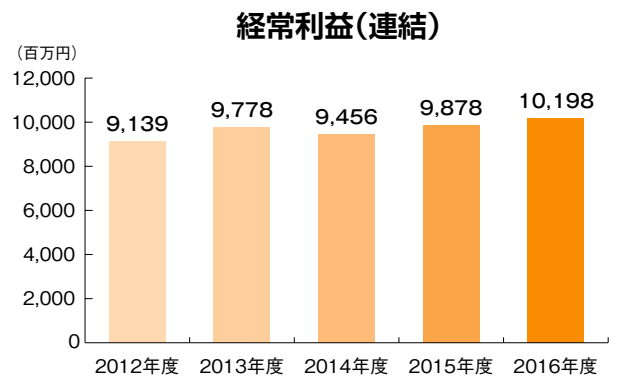
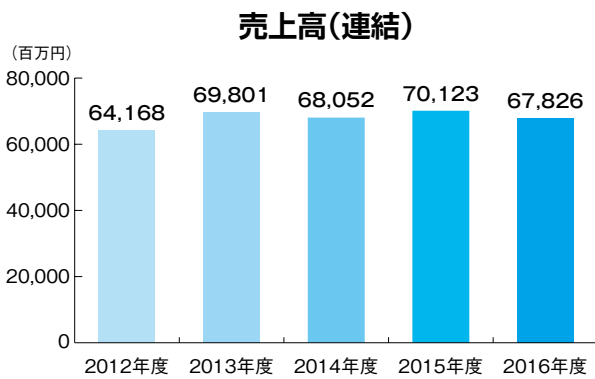
#### 国内グループ会社

東北積水樹脂株式会社 (宮城)  
関東積水樹脂株式会社 (群馬)  
積水樹脂キャップアイシステム株式会社 (東京)  
日本ライナー株式会社 (東京)  
積水樹脂プラメタル株式会社 (長野)  
エスジェイシー寿株式会社 (三重)  
スペースシア株式会社 (滋賀)

オーミテック株式会社 (滋賀)  
積水樹脂電子テクノ株式会社 (滋賀)  
積水樹脂商事株式会社 (大阪)  
積水樹脂産商株式会社 (大阪)  
サンエイポリマー株式会社 (山口)  
宮崎積水樹脂株式会社 (宮崎)  
ロードエンタープライズ株式会社 (鹿児島)

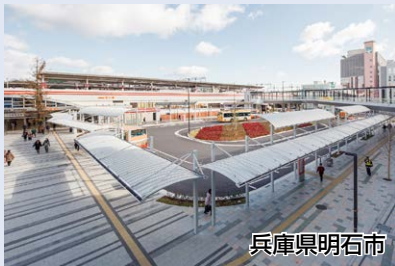
土浦つくば積水樹脂株式会社 (茨城)  
北陸積水樹脂株式会社 (石川)  
滋賀積水樹脂株式会社 (滋賀)  
広島積水樹脂株式会社 (広島)  
その他機能分社

## 連結業績の推移



## 事業トピックス(2016年度における製品の主な採用事例)

### ■シェルター製品



シェルター製品は、景観に配慮した意匠性の高さが評価され、駅前整備事業やバス停に採用されました。

### ■人工木製品



人工木製品は、車道の一部を憩いの場とするパークレット事業の社会実験に「オレンジウッドデッキ」が神戸市にて設置されました。

### ■アルミ樹脂積層複合板



アルミ樹脂積層複合板は、ビルの建て替えに伴う仮設資材用途に加え、小売店及び各種施設の内装材に採用されました。

### ■ストレッチ包装機



ストレッチ包装機は、人手不足による省人化・省力化ニーズの高まりを背景に操作性やメンテナンス機能に優れた全自動・半自動機の製品が好評を博しました。

### ■組立パイプシステム製品



葉物野菜の育苗作業の省力化・効率化への対応として組立パイプシステムを活用した提案を行いました。

### ■農業支柱



農業支柱は、栽培ニーズに対応した製品提案が功を奏し前年を上回る成績を収めました。

# 事業概要

## 事業分野別 製品のご紹介

積水樹脂グループは、独自の技術により  
特色ある製品の事業化を図っています

### 交通・景観 事業

交通安全資材、景観資材の総合メーカーとしての技術力・提案力を活かし、安全・安心な道づくり、街づくりに貢献します。

#### 防音壁



統一型防音壁+透明板

#### 道路標識



太陽電池式照明灯  
「ソーラールミT2」+路側標識

#### サイン・看板



観光案内サイン

#### 路面標示材



シート標示材「ジスラインS」

#### 保安用品



車線分離標「ボールコーン」

#### 電子システム製品



視線誘導発光体 帯状ガイドライト

#### 道路反射鏡



ハイドロクリーンミラー

#### 交通安全資材



視線誘導標「デリニエーター」

#### 路面標示材



「ロードライン7000」  
(日本ライナー株式会社)

#### 交通規制材



成型品規制材「バリロード」  
(日本ライナー株式会社)

#### 舗装工事



遮熱性舗装材  
(日本ライナー株式会社)

#### 構造物維持メンテナンス



コンクリートはく落防止工事  
(日本ライナー株式会社)

#### シェルター



通路シェルター  
「FTS-S24」

#### 防護柵



勾配自在柵「FXTC」

#### 車止め



弾性車止め「DK-5」

#### ソーラー照明灯



ソーラー照明灯「SLV2」

#### 組立歩道



コンクリート壁後付け  
階段システム

#### 高欄



橋梁用投物防護柵  
「クラスターバリア」

#### 公園資材



災害対応ベンチ  
「かまどベンチ」

#### プラスチック擬木



テンダーウッド  
「PGタイプセンタータイプ柵」

#### 人工木材



スーパーオレンジウッド  
デッキ材



角型テンダーウッド  
ルーバー材



住建材  
事業

景観に調和するシンプルなデザインでありながら、騒音などの住環境を取り巻く諸問題の対策に貢献する外構製品や、独自の技術により軽さと強さを実現した建築内外装製品をご提供しています。

メッシュフェンス



物流センター  
メッシュフェンス「G10」

めかくし塀



工場外構  
めかくし塀  
「B型〈簡易遮音タイプ〉」

防音めかくし塀



保育園外構  
防音めかくし塀「PS-4型」

縦格子フェンス



縦格子フェンス  
「ETW-1H」

メッシュストッカー



大型メッシュストッカー

自転車置場



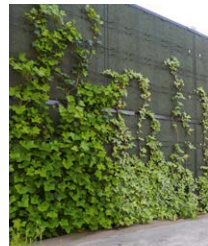
サイクルシェルター「GRシリーズ」

大型引戸



大型アルミ複式引戸  
「2型(太格子タイプ)」

緑化フェンス



防音めかくし塀 緑化パネル  
添架「PS-4型 緑化タイプ」

内装建材



メタカラー建材  
鏡面内装材「SKW」

仮設防音パネル資材



フラメタル  
「ビルガード」  
(積水樹脂フラメタル株)

スポーツ  
施設事業

耐久性・安全性に加え、すぐれたプレー性を兼ね備えた人工芝「ドリームターフ」は、その品質が評価され、全国の学校や自治体のグラウンド整備に貢献します。

スポーツ用人工芝



ロングパイル人工芝「ドリームターフ」



ロングパイル人工芝「ドリームターフ cool」

エクステリア用人工芝

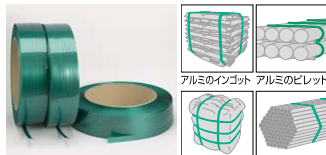


人工芝「ガーデングラス」

総合物流  
資材事業

梱包用結束バンド「PPバンド」をはじめ、梱包資材、梱包機、デジタルピッキングシステムなど多彩な製品を品揃えし、物流資材の総合メーカーとして、作業の効率化・合理化等にご貢献します。

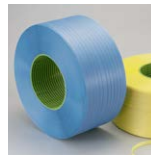
梱包用結束バンド



重梱包用PETバンド



アルミのインコット  
アルミのビレット



機能性バンド  
「ゆうバンド」

梱包機・梱包用フィルム



自動梱包機



梱包用フィルム  
「レスコア」

安全柵



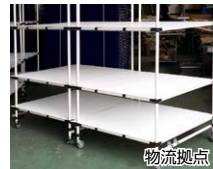
アルミ柵防音タイプ

デジタルピッキングシステム



アンサーキット  
(積水樹脂キャップアイシステム株)

組立パイプシステム



連結台車  
(スペースシア株)

OPPフィルム



花東用フィルム  
(サンエイポリマー株)

自動車部品関連製品



ドア内装  
車内ミラー  
(Sekisui Jushi(Thailand) Co.,Ltd.)

アグリ事業

耐久性・作業性に優れた農業・施設園芸資材が、快適な農業・園芸環境づくりに貢献します。

農業資材



トンネル支柱



農業ハウス用資材  
「寒冷地/バイライン」

獣害対策



成木保護ネット

園芸資材



農園芸用ポール  
「ニューセキスイボール」

省力化製品



農園芸用台車

# 「経営ビジョン2020」3rdステージ 中期経営計画

## ～積水樹脂グループの総合力を発揮し、更なる発展・成長を～

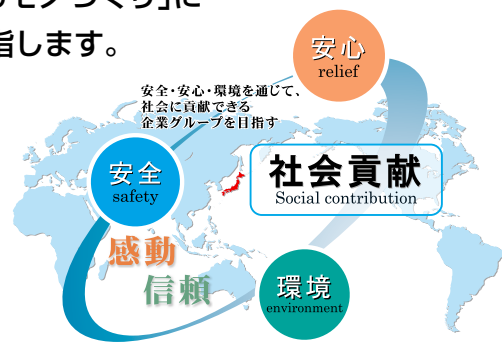
期 間：2017年3月期～2020年3月期(4カ年計画)  
 キーワード：総合力・巻き込み力・スピード力

積水樹脂グループは、「経営ビジョン2020」の3rdステージとなる2020年3月期を最終年度とする新たな「中期経営計画」(4カ年)を策定し、目標を達成すべく、事業活動を進めています。

### 2020年に目指す姿

「複合技術を活かした安全・安心、環境保全に貢献するモノづくり」によって信頼される“Hybrid Value Company”を目指します。

【主要な経営指標】	2020年3月期目標
連結売上高目標	1,000億円
連結営業利益目標	120億円
ROE	8.2%
配当性向	27%以上



### 拡大基調を継続するための諸施策の推進

「基盤事業の進化と総合」「グローバル展開の拡大」「新事業創出」など拡大基調を継続するための諸施策をグループ一丸となって推進します。



### 戦略的投資の実施

#### ■ 製品開発や生産性向上への設備投資

連結設備投資額：80億円(4カ年)

#### ■ 更なる海外事業の拡大と国内事業の強化をスピーディーに実行するためのM&A投資

M&A投資額：150億円(4カ年)

## 基盤事業 の進化 と統合

### 総合力の強化

当社グループの最大の強みである幅広いドメインと製品群を最大限に活用。事業部門間の縦割りを廃し横串を入れて、お客様ソリューションのために当社グループ製品の総合提案を強化します。

#### 【取り組み事例】

#### 交通・景観関連製品の総合メーカーとして「津波避難タワー」の整備に貢献

東日本大震災の教訓より、急ピッチで建設されている津波避難タワーの整備に、当社の手すり柵、高欄、メッシュフェンス、破壊窓付き門扉を総合提案し、採用されました。



津波避難タワー

## グローバル 展開の 拡大

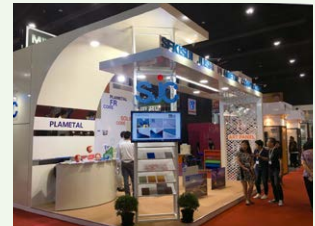
### アジア・オセアニアと欧州に特化し、グローバル展開を拡大

関係会社の製品の海外事業化を推進するとともに、M&A投資を強力に推し進めることにより、当社グループ製品の販売拡大を図ります。

#### 【取り組み事例】

#### 欧州及び東南アジアにおけるブランド発信

海外で開催する展示会に当社グループの製品を積極的に出展するなど、ブランドと品質の高さの浸透につとめています。



Architect 2017(タイ王国)

## 新事業 創出

### 次なる事業の柱となる新事業を早期に創出

社会のニーズに基づく製品開発・提案を進めるとともに、4つの分野で新事業の基盤構築を推進し、次なる事業の柱に育てます。

#### 【4つの新事業分野】

##### ① 環境・安全

公共分野で長年培った「安全・安心・環境」のノウハウを活かし、工場・生産現場をはじめとする民間分野にも対応した製品開発・提案を進めます。

##### ② リサイクルシステム

コア製品のリサイクルシステム構築により新たなビジネスモデルを確立し、ユーザーとの関係性の強化と環境保全の両立を実現します。

##### ③ 補修・メンテナンス

公共事業は、予算が集中する国土強靱化やインフラ長寿命化対策分野に注力。当社グループの施工技術も活用しながら、提案から施工までワンストップでの対応を進めます。

##### ④ 公民連携

「公民連携スキーム」(民間による公共施設の設計・建設・維持管理・運営)をターゲットとして、保守・運営マネジメント事業など「公共と民間の中間的事業」に対する取り組みを推進します。

# CSV 報告

積水樹脂グループは、「価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献する」という経営理念のもと、製品づくりで社会に貢献したいという想いで企業活動に取り組んでおり、事業を通じて社会的な課題に対する解決策を提供することにより、CSVの実現を目指しています。  
CSV報告では、当社グループのCSVの考え方や主要なCSVテーマに対する活動事例をご紹介します。

## CSV: Creating Shared Value (共有価値の創造)

社会問題の解決と企業の成長を両立させ、社会と企業の両方に価値を生み出す取り組みです。

### 社会とともに積水樹脂グループが成長



#### 経営理念

積水樹脂株式会社は、プラスチックと金属、繊維その他の物質とを結びつけた、価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献し、会社の限りなき発展と従業員の豊かな生活を実現する。

#### 経営ビジョン

“安全・安心” “地球環境の保全”に貢献する取り組みをグローバルに展開

当社グループの主要なCSR活動は、環境報告(P.17～)、社会性報告(P.35～)をご参照ください。

## CSV 社会と共有できる価値の創造

### 主な取り組み

- |               |        |                    |        |
|---------------|--------|--------------------|--------|
| ■ 活動事例 ① 暑さ対策 | ▶ P.12 | ■ 活動事例 ② 安全・安心への対応 | ▶ P.13 |
| ■ 活動事例 ③ 騒音対策 | ▶ P.15 | ■ 活動事例 ④ 減災・防災対策   | ▶ P.16 |

## 暑さ対策

地球温暖化の進行にともない都心部のヒートアイランド対策や熱中症対策が社会的な課題となっています。この課題を受けて、当社グループは、温度上昇抑制機能を付加した高機能製品を開発し、提案を進めています。

## 活動報告

## ヒートアイランド対策

## 遮熱性舗装による路面温度の上昇抑制

当社グループ会社である日本ライナー(株)は、路面の蓄熱を抑え、路面温度の上昇を抑制する遮熱性舗装を通じて都心のヒートアイランド対策に取り組んでいます。

路面温度上昇の原因となる近赤外線を反射させる遮熱性顔料を含む遮熱性舗装であり、都市部のヒートアイランド化対策に貢献しています。



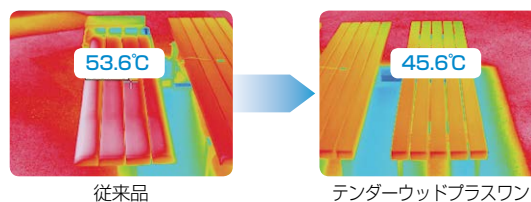
超低臭型道路用遮熱性舗装(日本ライナー(株))

## 真夏の炎天下でも快適な利用が可能な新型ベンチ

当社は、真夏の炎天下でも快適な利用を可能とする新型ベンチ「テンダーウッド プラスワン」を新たに開発しました。座面が熱くなりづらい構造(特殊樹脂とアルミ芯材の放熱効果)により、座面表面温度が当社従来品(オレンジウッドE)に比べ大きく低減されます。



## ■ 赤外線サーモグラフィによる温度計測



※本数値は試験結果であり、性能を保証するものではありません。  
(2016年9月滋賀県にて実施)

真夏の炎天下では、ベンチ座面の表面温度は50℃以上となります。表面温度が50℃以上では座り続けることが困難ですが、40℃台に低減することで、真夏の炎天下でも快適な利用を実現しました。

## 人工芝による温度上昇抑制対策

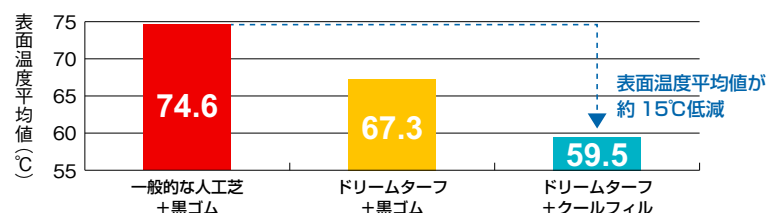
地球温暖化の進行にともない、屋外でのスポーツは、熱中症の危険性がますます高まっています。そこで、当社は、一般的な人工芝に使われるヤーンをはるかに上回る「日射反射性能」を備えるモノフィラメントヤーンを開発し、ロングパイル人工芝「ドリームターフ」の全シリーズに採用。より快適で安全なプレーを実現します。



当社が開発した特殊温度抑制チップ「クールフィル」と組み合わせることで、人工芝表面温度の上昇を最大15℃抑制することができます。

## ■ 屋外暴露試験による温度抑制効果の確認結果(2010年8月滋賀県にて実施)

当社の「ドリームターフ」の方が一般的な人工芝よりも温度抑制効果が高く、さらに「クールフィル」と組み合わせることで、より高い効果を発揮することが確認できます。



※表面温度はサーモグラフィによる表面全体の平均温度を測定しました。  
※本数値は社内試験による試験結果であり、性能を保証するものではありません。

# 安全・安心への対応

現在の日本は、自動車なしでは経済活動も毎日の暮らしも成り立ちません。人々の行動範囲の広がりや交通機関の急速な発展にともない、道路交通網は年々変貌を遂げ、「安全・安心」を基本とする整備の充実が求められています。

しかし、交通事故は道路交通網の発展とともに増加し、死亡事故件数は減少傾向にあるものの負傷者数・事故発生件数は依然として多い状況が続いています。このような中、積水樹脂グループは、歩行者、自転車、自動車などあらゆる人・モノが「安全・安心」に通行できる交通環境づくりに向けた提案を進めています。

## 活動報告

### 逆走防止対策

近年、重大事故につながる危険性が高い「高速道路での逆走」が頻繁に発生しており、その対策が社会的な課題となっています。この課題を受けて、当社グループは、交通・景観関連製品の総合メーカーとしての強みを活かし、注意喚起標識による「視覚に訴える対策」、樹脂製の車線分離標による「物理的な抑止対策」など、現場の状況に応じた効果的な対策を検討し、提案を進めています。

#### 視覚に訴える対策



通常走行時は注意情報が見えないようにしています。



逆走時は、立体的に見える標示材である「ソリッドシート(イメージハンブ)」を用いて、視覚効果により「逆走危険」をドライバーに注意喚起します。

#### 物理的な抑止対策



ドライバーが誤進入するおそれのある危険箇所に、車線分離標「ボールコーン」を設置することで、逆走の物理的な抑止を図ります。「ボールコーン」は特殊ウレタン樹脂の弾性体で車両が接触してもすみやかに復元します。

### 逆走防止対策技術が実道での検証を行う技術として NEXCOに選定されました

国土交通省が掲げる「2020年までに高速道路の逆走事故をゼロにする」という目標達成の取り組みの一環として、NEXCOによって民間企業などからの逆走対策技術の公募が行われ、当社及び当社の関係会社である日本ライナー(株)が提案した技術が実道での検証などを行う技術として選定されました。今後、技術の実用化を目指し、NEXCOと連携し、検証・評価を進めていきます。

選定技術の概要【テーマ1】				
No.2	名称	防眩板応用注意喚起	企業名	日本ライナー(株)
概要	中央分離帯に設置する防眩板を十字形状にし「逆走中」等の文字を表示し、逆走車両へ注意喚起するもの。			
<p>(逆走イメージ)</p>		<p>・十字型の形状とすることで順走時や反対車線からの視認を防止。 ・防眩板として設置することも可能。</p>		

NEXCO東日本のHPより

## 自転車の安全対策

自転車利用者の増加にともない、自転車事故の増加が問題となっています。当社は、交通・景観関連製品の総合メーカーとして、安全・安心な自転車通行環境整備に向けた様々な製品を提案しています。

### 採用実績のご紹介



自転車マークなどを表記した路面標示により自動車に自転車通行帯を認識させます。



文字やピクトグラム(図記号)で自転車・歩行者に視覚的にルールやマナーを認知させ、円滑な通行を可能にします。



事故危険察知などの見えやすさと、景観に配慮した色彩・形状とのバランスを考慮した整備を可能にします。

## 生活道路の安全対策

登下校中の児童・生徒などが巻き込まれる痛ましい交通事故が相次いで発生したことを背景に、「生活道路の安全対策」が必要とされています。この課題を受け、当社は、狭い幅員にも設置可能な高強度防護柵を開発しました。



### 限られた幅員にも設置可能な高強度防護柵

生活道路の安全の確保には、車両の歩道内への進入を防止する車両用防護柵の設置が有効ですが、幅員が狭いため設置が困難な箇所があります。この問題を解決するため、スリムな構造で車両衝突を考慮した設計の高強度防護柵「Lp柵」を開発しました。ガードレールより景観を阻害せず、また、歩行者を確認しやすい構造です。

## 工場・物流センター内の安全・安心に貢献します

道路や都市・住環境分野で長年培ったノウハウを活かし、工場内通行や生産現場をはじめとする「工場・物流センター内の安全・安心・環境」に貢献する製品の提案を進めています。



第三者の侵入防止、安全対策、防音対策など使用シーンに合わせて多様な機能を付加することが可能な「安全柵」が、安全・安心・環境に貢献する製品として多数の工場で採用されました。



薄暮時から強い発光で注意喚起が可能な「グラウンドフラッシュ」が、歩行者の車道へのはみ出しを防止する目的で工場に採用されました。

騒音は、日常生活に深く関わった公害であり人体に与える影響が大きいことから、その対策は重要な社会的課題です。当社グループは、公共分野で培ってきた防音技術を活かし、民間分野での騒音対策にも貢献する製品を開発し、提案を進めています。

## 活動報告

## 工場の騒音対策

近隣への防音対策として、工場や工事現場で発生した騒音を外に漏らさない対策が進められています。当社では、外構で囲う方法と騒音元そのものを囲う方法の大きく分けて2つの提案を進めています。

## 住環境向上のための工場外構の防音対策

「防音めかくし塀 PS-4」



外構での工場騒音対策



高さ5mの大型化を可能としています。高くすることで防音範囲を広くすることが可能です。

## 工場内設備周辺の防音対策

「安全柵(防音タイプ)」



工場内設備の騒音対策

## 工事現場の仮囲い防音対策

「防音アフィラウォール」



工事現場の仮囲い防音対策



工場内騒音元の設備を囲う騒音対策



通風タイプにより騒音対策を図りながら通気が可能



工事中の騒音対策として、仮囲いに防音機能を持たせたパネル形状の仮設材です。

## 保育園や幼稚園から発生する騒音を低減する製品の提案

保育園や幼稚園に近接する住宅への騒音対策として、防音機能とめかくし機能によりプライバシーの保護にも有効な防音めかくし塀で、快適な保育環境と住環境を両立する提案を進めています。

「防音めかくし塀」



保育園屋上園庭の防音対策



プライバシーの保護も可能



保育園園庭の防音対策

園児の声など、発声音を低減し近隣住民への配慮を行うとともに園児がのびのびと遊べる空間を作ります。



保育園の防音対策



# 減災・防災対策

東日本大震災や熊本地震の痛ましい被害から、現在、災害に強いまちづくりに向けた取り組みが全国各地で進められています。当社グループは、阪神・淡路大震災直後から減災・防災に貢献できる製品の研究・開発を本格化させ、これまで様々な減災・防災対策をサポートしてきました。ここでは、当社グループの近年の取り組み事例をご紹介します。

## 活動報告

### 分かりやすい避難情報の提供

外国人を含め直感的に理解できるピクトグラム(図記号)が避難場所へ誘導します。高輝度蓄光と反射式標識を併用することで、電気を使うことなく、夜間でも分かりやすい避難情報の提供が可能です。



蓄光材の発光



反射シートの再帰反射



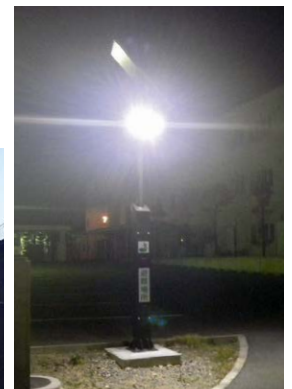
高輝度蓄光+反射式標識

JIS-Z9097 津波避難誘導標識システム  
JIS-Z9098 災害種別避難誘導標識システム 暗闇対策 準拠

過去に発生した地震・津波は夜間に発生したケースも多いことから、避難路にソーラー照明灯を設置する提案を進めています。



避難階段への設置 (アーバンソーラー照明灯)

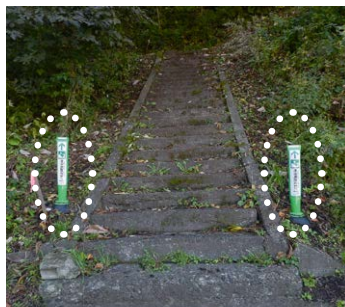


避難路交差点への設置

### 避難路の安全対策

#### ポールコーンガイド 仮設タイプ

設置工事が不要で、置くだけで案内情報提供が可能な「ポールコーンガイド 仮設タイプ」が避難路の安全対策に貢献しています。



### 高台への避難路の整備

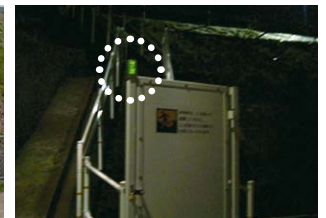
津波発生時(緊急時)には蹴破り門扉を蹴破って高台に避難します。夜間時に門扉の位置を分かりやすく示すため、門扉の上に太陽電池式小型発光体「フレックスフラッシュ(緑色発光)」を設置する提案を進めています。



フレックスフラッシュ



蹴破り門扉



### 避難場所の災害対応

災害対応トイレ付シェルターは、平常時には、自転車置場として利用でき、災害時にはトイレとして災害対応に役立ちます。



簡易便座を設置



災害対応トイレ付シェルター (自転車置場)



災害時

ソーラー小型照明も設置し停電時も快適な利用が可能です。



ソーラールミ 発光部 (セバレートタイプ)

# 環境報告

## 「地球のために 子供たちの未来のために」

### 環境経営理念

我々は、かけがえのない「地球」を、環境破壊・資源枯渇など、地球環境問題から保護することを最重要課題と認識し、地球に優しい環境調和型製品・事業活動を通じて「地球と人類の永続的調和」及び「人間性豊かな生活環境づくり」に貢献します。

### 環境経営方針

「資源は節減・循環、廃棄はゼロ、環境は改善・保全」

1. 地球環境に対し、「廃棄はゼロ、環境は改善・保全」を通じて社会的責任を果たします。
2. 地球環境調和型製品の開発を通じて、「資源は節減・循環」に貢献します。

積水樹脂グループは、持続可能な発展にむけて環境保全、環境教育、環境調和型製品の開発及びCO<sub>2</sub>排出量削減などの取り組みを推進しています。

### 第6次環境3カ年計画（2016～2018年度）環境活動の取り組み

#### 事業活動における環境負荷の低減 21～22ページ

CO<sub>2</sub>排出量

原単位※  
2015年度比

国内生産事業所

<目標>

1%以上削減

<実績>  
6.5%削減

国内オフィス

<目標>

1%以上削減

<実績>  
3.4%削減

廃棄物排出量

国内生産事業所

<目標>

1%以上削減

<実績>

1.5%増加

化学物質排出・移動量

PRTR法に基づく化学物質

<目標>

1%以上削減

<実績>

1.9%増加

#### 事業・製品による環境貢献 19～20ページ

地球環境調和型製品の拡大

<目標>

地球環境調和型新製品

- ・売上高比率：33%以上
- ・上市数：平均40件/年以上

<実績>

売上高比率

33.1%

上市数

40件

#### 生物多様性の保全 25～26ページ

- ・自然環境保護団体との連携及び活動支援
- ・環境保全活動
- ・環境コミュニケーション

※ 原単位とは、製品の一定量を生産するのに必要な各生産要素（エネルギー、原材料など）の量及び排出される環境負荷量（CO<sub>2</sub>、廃棄物、化学物質）です。



## 生きもの保全への取り組み

### トンボをまもることは、自然環境をまもること

水辺で生まれ成虫になると陸で生活するトンボは、自然環境の健全度を表す指標とされています。積水樹脂は、近隣企業とトンボを通じた滋賀湖東地域の環境保全を目的とした生物多様性の保全活動を開始しました。滋賀積水樹脂(株)の敷地内では現在27種のトンボの生息を確認しています。

<b>イトトンボ科</b>  <b>キイトンボ</b>  <b>アジアイトトンボ</b>		<b>ヤンマ科</b>  <b>ギンヤンマ</b>  <b>サラサヤンマ</b>	
<b>サナエトンボ科</b>  <b>ヤマサナエ</b>  <b>コオニヤンマ</b>  <b>ウチワヤンマ</b>		<b>オニヤンマ科</b>  <b>オニヤンマ</b>	
<b>トンボ科</b>  <b>ハッチョウトンボ</b>  <b>チョウトンボ</b>  <b>アキアカネ</b>  <b>ミヤマアカネ</b>			

滋賀積水樹脂(株)に生息するトンボの一例

### 積水樹脂が保全している、その他の生きもの

滋賀積水樹脂(株)の敷地内には希少な湿地性植物をはじめ、多くの生きものが生息しており、保全活動に取り組んでいます。

 <b>サギソウ</b>	 <b>イシモチソウ</b>	 <b>ムラサキミミカキグサ</b>	 <b>カスミサンショウウオ</b>	 <b>ミズオオバコ</b>
---	---	---	--	---

滋賀積水樹脂(株)に生息する希少な生きものの一例

事業・製品  
による  
環境貢献

製品の開発・設計から使用・廃棄までの段階で環境に配慮した地球環境調和型製品を通じて、環境負荷の低減に取り組んでいます

地球環境調和型製品とは

社内基準を満たす環境面で有効な製品です

地球環境調和型製品は、以下のいずれかの社内基準を満たす、環境面で有効な製品をいいます。

基準 1

製品のライフサイクルのいずれかの段階において環境負荷を低減させるように設計された製品

基準 2

納入先が指定する環境基準を満足するように設計された製品

基準 3

エコマークおよび各自治体の環境認定基準に適合した製品

地球環境調和型製品の一例

自然気化式の加湿器



「うるおい～ちいさな森～」



灯具のLED省電力化  
道路灯、街路灯



消費電力低減  
デジタルピッキングシステム

CO<sub>2</sub>削減

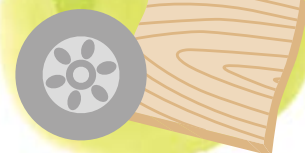
CO<sub>2</sub>削減

地境製  
環境製

製品売上高比率

33.1%

再生材の利用



廃材(碇子)使用カラーライン



路面標示材「ジスラインカラープラス」

廃タイヤチップ弾性車止め



弾性車止め「DK-5」

再生プロピレンバンド



環境配慮型梱包用結束バンド「フライテックス」

廃プラスチック再生人工木



オレンジウッドデッキ



オレンジウッド かまどベンチ

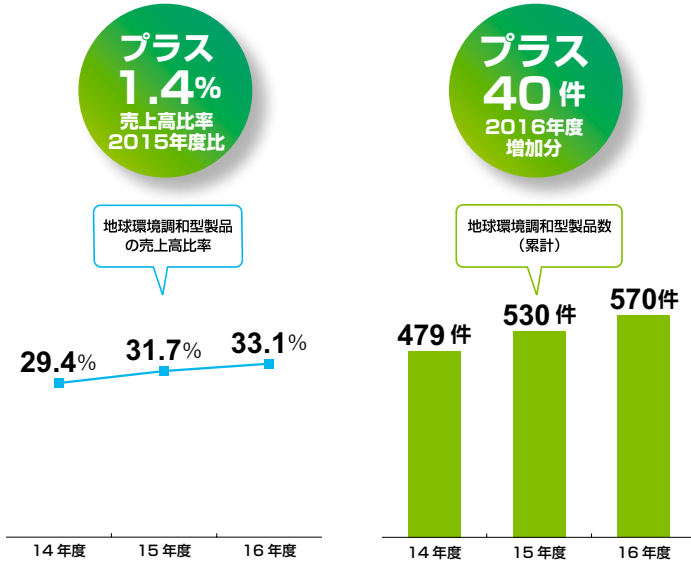


テンダーウッド柵

地球環境調和型製品の売上高比率と新製品上市件数

製品売上高比率は33.1%、新製品上市件数は40件

当社グループは、事業活動を通じた環境負荷低減への取り組みとして、地球環境調和型製品の開発と普及を推進しています。2016年度においては、地球環境調和型製品の製品売上高比率33.1%と、目標を達成しました。今後も地球環境調和型製品の更なる開発と普及に注力していきます。



地球環境調和型製品の売上高比率は、以下の式により算出します

$$\text{地球環境調和型製品の売上高比率} = \frac{\text{地球環境調和型製品売上高} (\ast 1)}{\text{全製品売上高} (\ast 2)}$$

- (※1) 2002年度以降認定された地球環境調和型製品の当該年度の売上高
- (※2) 当該年度の製品売上高合計

生産工程での環境負荷低減

太陽エネルギーの利用

地球調和型製品

製品総数 570件

パネル部材の無溶接化



■使用例



勾配対応柵「フレックスロープ」

離型紙レス(ジスラインS製造時)



■使用例



「ジスラインS」



冠水対応ソーラー照明灯



SLキャップ 柵支柱取付



「フレックスフラッシュ」



セパレート型ソーラーLED照明灯



「ソーラールミ T-II」



「ポールコーンルミ」

事業活動  
における  
環境負荷の  
低減

# エネルギー使用量、CO<sub>2</sub>・廃棄物排出量削減を 環境経営の重要課題と位置づけ、生産・オフィス 部門でさまざまな取り組みを行っています

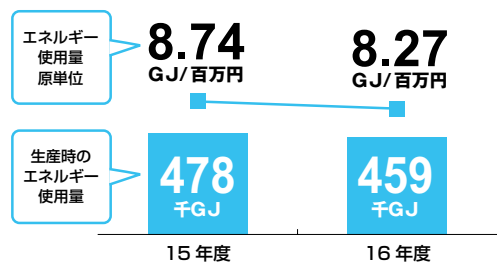
## 生産事業所のエネルギー使用量、CO<sub>2</sub>排出量削減への取り組み

**エネルギー使用量原単位 5.4%削減、  
CO<sub>2</sub>排出量原単位 6.5%削減 (2015年度比)**

生産事業所において、生産プロセスや空調・照明設備等の改善・適正管理を行い、生産時のエネルギー使用量や、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。2016年度は、国内において2015年度比でエネルギー使用量原単位は5.4%、CO<sub>2</sub>排出量原単位は6.5%の削減となりました。海外においても、0.3%ではありますが、CO<sub>2</sub>排出量原単位の削減となりました。今後も、生産プロセスの改善や省エネ設備の導入、エネルギーの見える化・節電対策など、ハード・ソフトの両面から、省エネ活動の強化をはかっていきます。

### 生産時の エネルギー使用量と 原単位

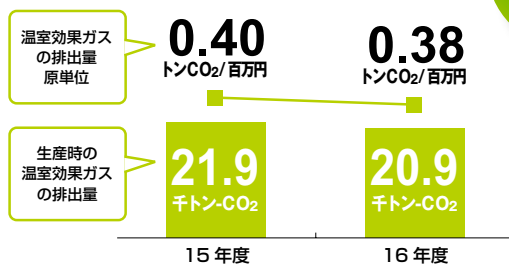
原単位  
**5.4%  
削減**



※GJ(ギガジュール)=10<sup>9</sup>J(エネルギーの単位)

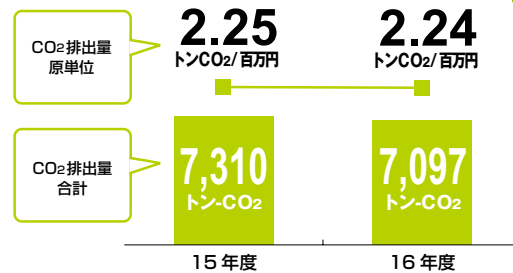
### 生産時のCO<sub>2</sub>排出量と原単位 国内事業所

原単位  
**6.5%  
削減**



### 生産時のCO<sub>2</sub>排出量と原単位 海外事業所

原単位  
**0.3%  
削減**



(注)海外生産事業所においては、売上高を基準年(2012年)の為替レートで円換算し、原単位を算出しています。

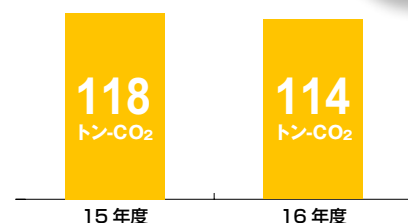
## オフィスにおける省エネルギーの推進

**オフィスのCO<sub>2</sub>排出量 3.4%削減 (2015年度比)**

オフィスにおいても省エネ・節電の取り組みを推進しています。クールビズの推進、パソコン・ディスプレイの省電力モード化などの省エネ活動を、当社グループ全体で継続して取り組んでいます。このような活動により、2016年度のCO<sub>2</sub>排出量削減実績は、2015年度比で約3.4%削減となりました。

### オフィスのCO<sub>2</sub>排出量

排出量  
**3.4%  
削減**



PRTR法 対象化学物質排出量・移動量削減への取り組み

PRTR法(※)対象化学物質排出量・移動量原単位 1.9%増加 (2015年度比)

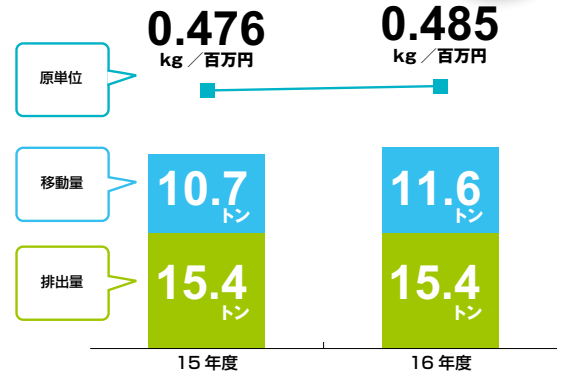
PRTR対象化学物質の移動・排出量削減のために、対象化学物質の非含有タイプ原材料への切り替えや製造プロセスにおける使用効率の改善等に取り組んでいます。2016年度は多品種小ロット生産を進めることにより、PRTR対象化学物質の取扱量は2015年度比で減少したものの洗浄廃液の増加などで対象化学物質排出量・移動量(原単位)は、2015年度比で1.9%の増加となりました。今後、対象化学物質の削減のために、対象化学物質の非含有タイプ原材料への切り替えや、製造プロセスにおける使用効率の改善などにさらに取り組むとともに、当社グループ共通の化学物質管理の指針に基づき、グループ全体で、化学物質の使用量管理、紛失・盗難防止の強化につとめていきます。

(※)PRTR法

PRTR法とは正式名称を「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」といいます。人の健康や生態系に有害なおそれがある化学物質について環境中への排出量及び廃棄物に含まれての移動量を事業者が自ら把握して、行政に報告し、さらに行政は事業者からの報告や統計資料を用いた推計に基づき排出量・移動量を集計・公表する制度です。

PRTR法 対象化学物質  
排出量・移動量と原単位

原単位  
1.9%  
増加



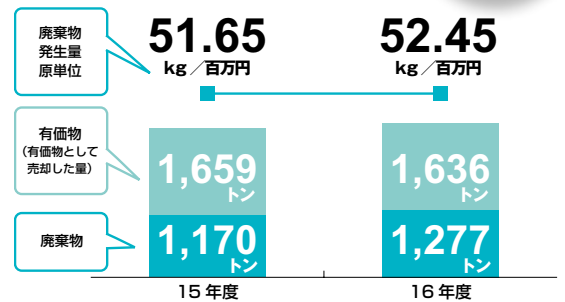
生産事業所における廃棄物削減の取り組み

有価物も含めた廃棄物の削減に取り組んでいます

2010年度より、「排出物」の削減を目的として、有価物を含めた廃棄物の削減目標を設定し、取り組みを行っています。2016年度は、各生産事業所において、生産工程における歩留まり改善、不良率の低減活動を推進しましたが、国内においては生産品種対応にともなう品種替えロスなどの影響や、遊休設備の廃棄などもあり、廃棄物排出量原単位は2015年度比1.5%の増加となりました。「3R (Reduce: 廃棄物の発生抑制、Reuse: 再使用、Recycle: 再資源化) 活動」への取り組みをこれまで以上に強化し、排出物の削減につとめます。

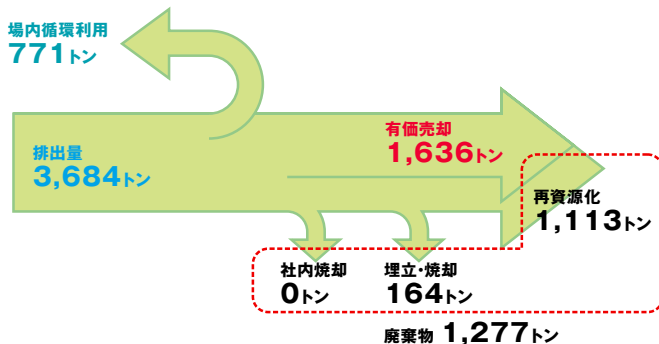
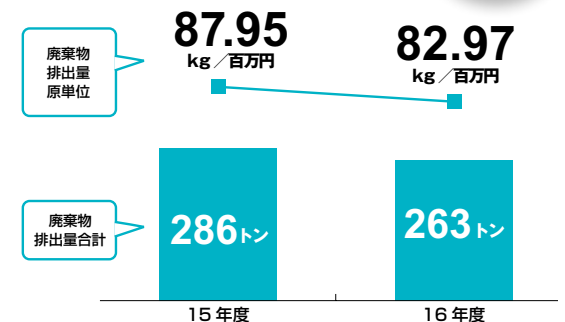
廃棄物排出量と原単位  
国内事業所

原単位  
1.5%  
増加



廃棄物排出量と原単位  
海外事業所

原単位  
5.7%  
削減



(注)海外生産事業所においては、売上高を基準年(2012年)の為替レートで円換算し、原単位を算出しています。

# リサイクルへの取り組み

## 使用済製品の回収・リサイクルによりCO<sub>2</sub>の削減に取り組んでいます

### 広域認定制度を活用した公共用製品のリサイクルへの取り組み

#### 使用済みの樹脂製視線誘導標を175トン回収・再生(2008~2016年度累計)

積水樹脂は、資源の有効利用・廃棄物削減のため、当社独自素材であるジスロンパイプを使用した樹脂製視線誘導標(デリニエーター・スノーポール)について広域認定制度の認定を取得しています。(認定日:2008年6月12日、認定番号:第145号)広域認定制度に基づくリサイクルシステムを構築し、使用后廃棄処理される樹脂製視線誘導標を、再度、原料として活用することで、建設廃材を他分野に流出させず、確実な環境負荷低減をはかっています。

#### CO<sub>2</sub>排出量を99トン(※1)削減(2008~2016年度累計)

使用済品の回収から再生原料化の過程で発生するCO<sub>2</sub>は、バージン原料製造(資源採掘・採取から原料製造)の過程で発生するCO<sub>2</sub>の約半分です(※2)。

広域認定制度に基づくリサイクルを実践することで、CO<sub>2</sub>排出量削減にも貢献しています。

**回収・再生  
175トン**  
2008~2016年  
累計

**CO<sub>2</sub> 排出量  
99トン削減**  
2008~2016年  
累計

(※1)

#### 広域認定に基づくリサイクルの対象製品

デリニエーター

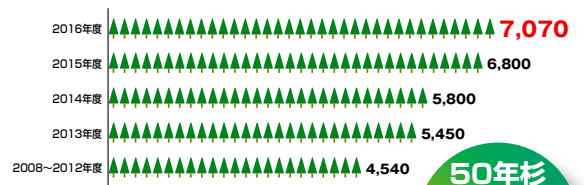
スノーポール



#### 広域認定制度とは？

製品が廃棄物となったものであって、当該廃棄物の処理を当該製品の製造、加工、販売等の事業を行う者が広域に行うことにより、当該廃棄物の減量その他の適正な処理が確保されることを目的として、廃棄物処理業に関する法制度の基本である地方公共団体毎の許可を不要とする特例制度です。

#### CO<sub>2</sub>排出削減量 年間累積合計 50年杉換算(本) (※3)



**50年杉  
約7,070本分  
に相当  
2008~2016年  
累計**



(※1) CO<sub>2</sub>削減量は、再生原料(樹脂)重量(2008~2016年度実績:138t)に、(※2)のCO<sub>2</sub>排出量の差(0.72kg)を乗じて算出しています。

(※2) バージン原料1kgあたりのCO<sub>2</sub>排出量:1.43kg(プラスチック廃棄物の処理・処分に関するLCA調査研究報告書(プラスチック処理促進協会)より) 再生原料1kgあたりのCO<sub>2</sub>排出量:0.71kg(2008年度の回収・再生実績を基に各工程でのCO<sub>2</sub>排出量を算出)

(※3) 50年生のスギ人工林1本当りの年間CO<sub>2</sub>吸収量を約14kg(岐阜県の収獲予想表に基づく試算値)として試算しています。(「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」環境省・農林水産省 林野庁作成の)「インレットより抜粋。)

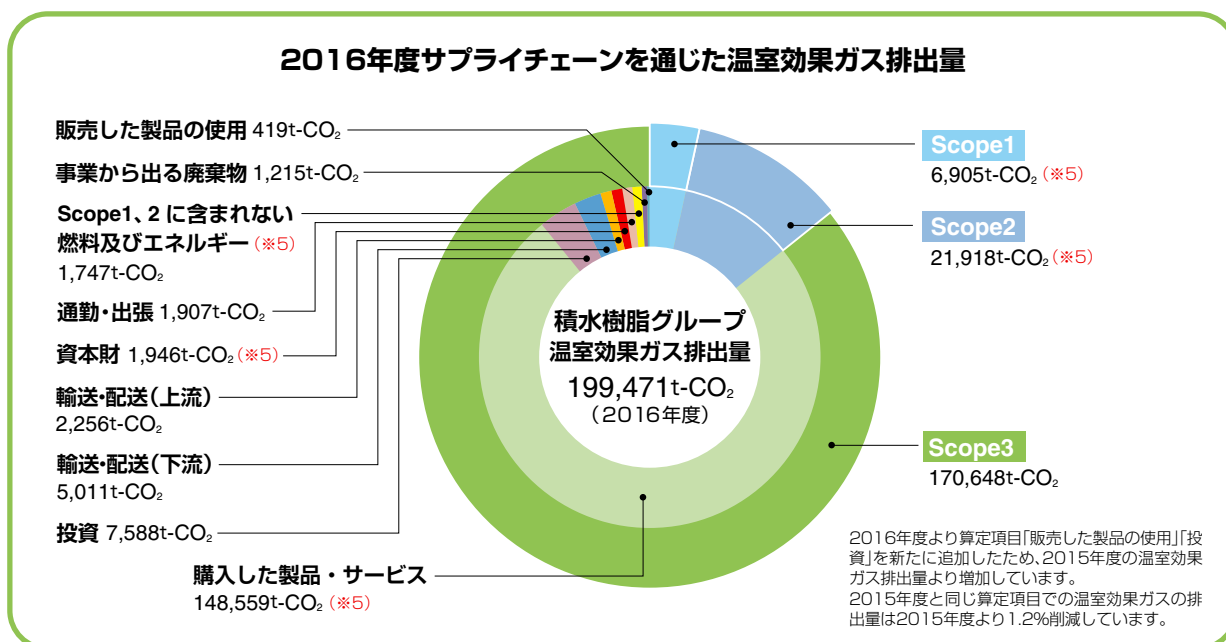


# SCOPE3 への 取り組み

## サプライチェーンを通じた 温室効果ガス排出量<sup>(※4)</sup>の 把握・削減に取り組んでいます

地球温暖化防止のためには、「自社の事業活動範囲」の温室効果ガス排出量把握・削減だけでなく、「サプライチェーン全体」を通じた温室効果ガス排出量の把握・削減への取り組みが重要となっています。

積水樹脂グループでは2013年度より、「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン(環境省・経済産業省)」に基づき社内算定基準を策定し、サプライチェーンにおける温室効果ガスの算定を開始しました。2016年度では、新たに「販売した製品の使用」と「投資」の算定を追加しました。今後も更に算定範囲を拡大し、サプライチェーンを通じた温室効果ガスの削減に繋げていきます。



### サプライチェーンの流れ



(※4) サプライチェーンにおける事業活動に伴って発生する温室効果ガス排出量全体を指し、直接排出量 (Scope 1)、エネルギー起源間接排出量 (Scope 2)、及びその他の間接排出量 (Scope 3) から構成されます。Scope 3 の 15 カテゴリーのうち、積水樹脂の事業活動に含まれない 2 カテゴリーは除外しています。(除外カテゴリー: 賃借しているリース資産、フランチャイズ)

(※5) 海外主要生産拠点を含めた算定項目。

## 生物 多様性の 保全

積水樹脂グループは、様々な環境活動主体と連携し、「生物多様性の保全」と「持続可能な利用」に積極的に取り組んでいます

### 積水樹脂グループ生物多様性保全の活動方針

積水樹脂グループは、「生物多様性の保全」を社会的責任の重要な一つと捉え、事業活動による生物多様性への負荷を認識し回避・低減することで「生物多様性の保全」及び「持続可能な利用」に努めます。

#### 指針 1

地球環境調和型製品の開発・普及を通じて、**生物多様性の保全**に貢献します。

#### 指針 2

省エネルギー、省資源、廃棄物・有害化学物質使用削減などに継続して取り組み、**環境負荷の低減**に努めます。

#### 指針 3

社会貢献活動として、事業所の立地する自然環境に応じた**生態系の保全活動**を推進します。

#### 指針 4

生物多様性に関する諸団体との連携を深めるとともに、情報発信を積極的に行い「**生物多様性の保全**」の普及に努めます。

### 自然環境保護団体との連携および活動支援

#### 「国連生物多様性の10年日本委員会」への協賛

生物多様性の保全と持続可能な利用に資する活動に協賛するべく、2010年より環境省とともに「国連生物多様性の10年日本委員会」に継続して支援を行っています。



同委員会のロゴマーク

#### 「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」への参画

2013年9月に設立された里山保全の全国組織となる「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」に設立準備段階より参画しています。2016年度には参加団体の活動事例集が作成され、その中で積水樹脂の環境保全活動を紹介しました。これからも本ネットワークと連携し、「SATOYAMAイニシアティブ」の「普及啓発」「情報発信」「対話と実績」を進めていきます。



同ネットワークの参加団体活動事例集

#### 琵琶湖博物館「環境学習活動者交流会」活動事例発表

2017年2月に滋賀県琵琶湖博物館主催の「環境学習活動者交流会」において当社生物多様性保全活動の事例発表を行いました。当社を含めた県内4社の活動事例を報告し、その後パネルディスカッションによる意見交換が行われました。今後も環境活動を通じた外部コミュニケーションにより、環境活動の向上を積極的に推進していきます。



活動事例発表の様子



## 環境保全活動

### 希少種「ミヤマアカネ」の保全活動

滋賀積水樹脂(株)の水路に、希少種の「ミヤマアカネ」が生息しており、秋にはこの水路が産卵場所となっています。



**水路 にくらす 生きもの**  
**ミヤマアカネ**  
滋賀県レッドデータブック2015 希少種

- 翅(はね)に **茶色い帯** がある
- 日本のアカトンボで唯一 **流れのある水域に産卵する**

■ 成虫の体長 3~4cm  
■ 成虫の出現期 夏~秋

◀ 成熟したオスは真っ赤 ▶  
メスは黄色~オレンジ色 ▶

**こんな環境が好き!** 鏡山の麓ならではの砂地と清流

- 鏡山から供給される **砂**
- **流れのある水路**
- 草地と水路の **植物**

オスは脚指にとまり産卵をアピール  
水路内は産卵場所、幼虫の生息場所  
未熟な成虫やメスが生息

花輪草属の砂  
ミヤマアカネ  
オオヨシキリ  
ミヤマアカネ  
オオヨシキリ  
オオヨシキリ  
オオヨシキリ

SC 公開情報 「鳥獣テンドーウッドサインN40シリーズ」

2017年3月に「ミヤマアカネ」の生態について紹介するサインを設置しました。

### 滋賀積水樹脂(株)の貯水池のヨシ刈りを実施



ヨシ刈り中



ヨシ刈り後

滋賀積水樹脂(株)の貯水池の一角に群生するヨシの刈り取りを2017年2月に実施しました。2017年6月に実施した生きもの調査では、ヨシ原で準絶滅危惧種のオオヨシキリの鳴き声を確認しました。

ヨシは、水中のリンや窒素などの栄養分を吸収して成育する水質浄化に寄与する植物ですが、約1年で成長が止まるため吸収量も減少します。冬にヨシ刈りをする事により、ヨシの成長を促しリンや窒素の吸収が活発化されます。



## 環境コミュニケーション

### 従業員と従業員の家族向け「トンボ観察会」

滋賀積水樹脂(株)の貴重な自然財産をぜひ知っていただきたいという思いから、2015年度より従業員の家族向けに「夏休みトンボ観察会」を開催しています。さらに2016年度には、家族だけではなく、場内で働く従業員にも工場の生きものを知ってもらおうと昼休みをつかった観察会を開催しました。



夏休みトンボ観察会の様子



昼休みをつかった観察会の様子

# サイト レポート

## 滋賀積水樹脂株式会社

### 滋賀製造所

所在地: 滋賀県蒲生郡竜王町大字西川字下中筋1321  
 主要生産品目: 防護柵・交通安全資材・人工木材・シェルター  
 設立年月: 1971年5月  
 敷地面積: 61,569㎡



滋賀製造所

### 竜王鏡製造所

所在地: 滋賀県蒲生郡竜王町大字鏡字谷田731-1  
 主要生産品目: メッシュフェンス・高欄・装飾建材・道路反射鏡  
 設立年月: 1987年6月  
 敷地面積: 129,415㎡



竜王鏡製造所

## 活動報告

### 社会貢献活動

滋賀積水樹脂(株)では、琵琶湖の清らかな水と琵琶湖の生態系を守るための各種活動に2016年度も継続して参加しました。

2016年6月には、琵琶湖の貴重な水産資源を食害し、その生態系に影響をおよぼす外来魚の駆除に貢献するために、「琵琶湖外来魚駆除活動」に参加し、多くの害魚を駆除しました。

また、琵琶湖の清らかな水を育む滋賀県の森林保全のために「琵琶湖森林づくりパートナー」として活動に協力し、例年通り10月に従業員とその家族が参加しました。

さらに2017年2月には、琵琶湖の水質を浄化するとともに多くの生物の生息・繁殖の場となる、ヨシの群落を守るための「琵琶湖ヨシ刈り活動」に周辺企業・団体とともに参加し、ヨシ刈り作業を行いました。

今後も引き続きこのような社会貢献活動に参加し、滋賀県の大きな資源である、琵琶湖とそれを支える生態系の保全につとめます。

### 省エネへの取り組み

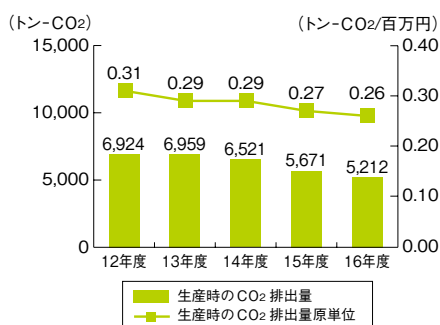
エネルギー使用量の削減のために、従来から推進している照明のLED化を行いました。また、取替時期の到来した生産設備に関しては、できるだけ効率の良いものに置き換えることで省エネルギーにつとめています。2016年度はボイラーや油圧ユニットの更新に際し、このような視点からの検討も加え、設備の更新を行いました。



琵琶湖ヨシ刈りボランティア活動の参加者

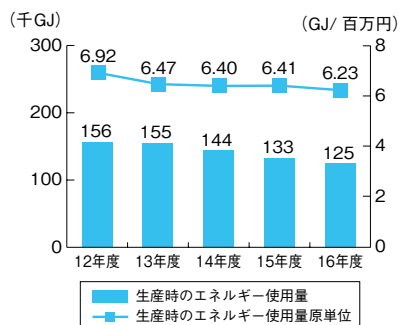
## 主要な環境パフォーマンスの推移

### 生産時のCO<sub>2</sub>排出量と原単位

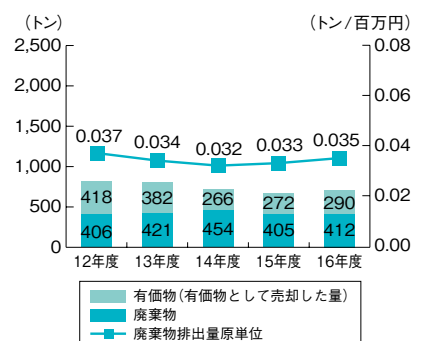


### 生産時のエネルギー使用量と原単位

※GJ(ギガジュール)=10<sup>9</sup>J(エネルギーの単位)



### 廃棄物排出量と原単位



# 北陸積水樹脂株式会社

所在地:石川県能美市吉原釜屋町口ー1  
 主要生産品: 梱包資機材・農業資材  
 設立年月:1972年4月  
 敷地面積:68,078㎡



石川工場

## 活動報告

### 企業の森づくり活動

北陸積水樹脂(株)では、地元住民の方々と共に日本海沿岸の松林保全(再生)活動に取り組んでいます。沿岸地の松林には、日本海の防風や砂の飛散、潮風による塩害、砂浜の浸食などを防ぐ役割があり、先人達の知恵を受継ぎ、松苗の植樹や下草刈りによる環境保全活動を進めています。2013年2月の植樹から4年が経過し、植樹した苗も約1m程度の高さまで成長しました。環境を守る活動としてこれからも継続し、地元の方々と共に住みやすい町づくりへ貢献していきます。



企業の森づくり活動の参加者

### リサイクルへの取り組み

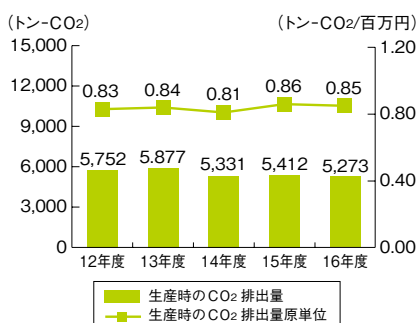
北陸積水樹脂(株)で生産している梱包用バンドに関して、使用済みバンドを回収し、廃棄物削減に貢献するために、再度製品に戻す循環型リサイクルシステムの構築にチャレンジしています。一部のお客様では既に回収から再利用までを進めており、広く展開していけるよう活動を行っています。



環境報告

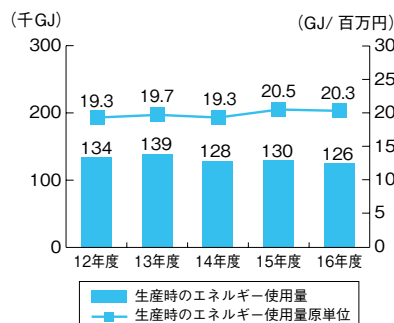
## 主要な環境パフォーマンスの推移

### 生産時のCO<sub>2</sub>排出量と原単位

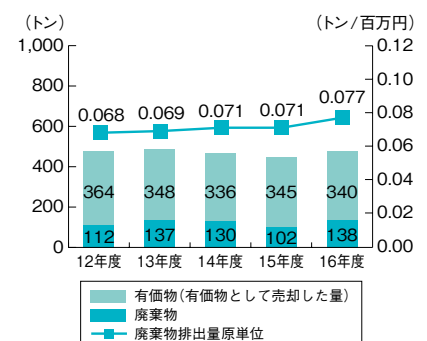


### 生産時のエネルギー使用量と原単位

※GJ(ギガジュール) = 10<sup>9</sup>J(エネルギーの単位)



### 廃棄物排出量と原単位



# 土浦つくば積水樹脂株式会社

## 土浦製造所

所在地:茨城県土浦市東中貫町2-2  
 主要生産品目:路面標示材・めかくし塀・防音めかくし塀  
 設立年月:1968年5月  
 敷地面積:31,811㎡



土浦製造所

## つくば製造所

所在地:茨城県牛久市桂町2200-3  
 主要生産品目:メッシュフェンス・手摺関連製品  
 設立年月:1990年5月  
 敷地面積:56,353㎡



つくば製造所

### 活動報告

## 労働安全への取り組み

事業所で使用する機会の多いフォークリフトについて、毎年場内での安全教育を実施していますが、2016年度は外部講師による安全のガイドライン等を踏まえた実地訓練を、2回にわたり実施しました。フォークリフト作業の安全向上に繋がります。

## 献血への協力

これまで推進してきた献血活動が評価され、日本赤十字社茨城県支部長より感謝状をいただきました。20年以上にわたり、毎年1回、工業団地の近隣企業を対象にした献血において、献血会場の提供、従業員の献血への参加を行ってきました。これからも、社会貢献活動の一環として献血に取り組んでいきます。



献血に対する感謝状

## 省エネへの取り組み

省エネへの取り組みとして、つくば製造所では電灯用の変圧器の更新に伴い、2台の変圧器を1台にすることで変圧器の損失が半分になるとともに、トッランナー変圧器の導入で損失をさらに低減することが可能となり、年間18,000kWhの電気使用量の削減につながりました。

## 環境貢献活動

2017年3月に「第87回霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦」が開催され、霞ヶ浦公園周辺の湖岸清掃に参加しました。霞ヶ浦の水質浄化・景観美化を図るため、当日は市民をはじめ、行政、団体、企業などとともに、一斉にゴミ拾いを行いました。今後も、地域社会と協力し、環境保全活動を積極的に行っていきます。

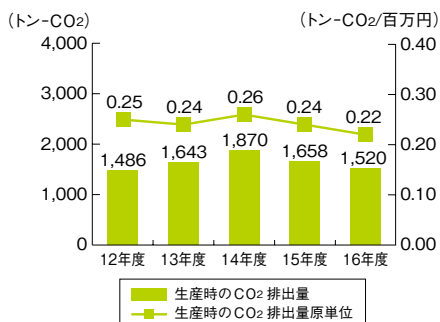


「第87回霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦」参加の様子



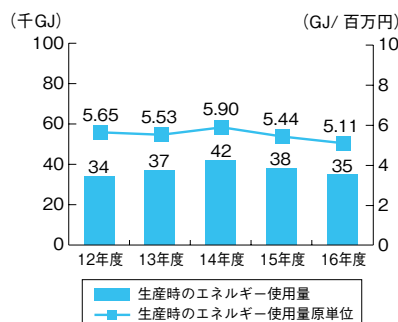
## 主要な環境パフォーマンスの推移

### 生産時のCO<sub>2</sub>排出量と原単位

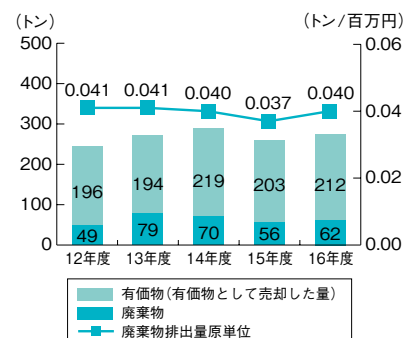


### 生産時のエネルギー使用量と原単位

※GJ(ギガジュール)=10<sup>9</sup>J(エネルギーの単位)



### 廃棄物排出量と原単位



# 積水樹脂プラメタル株式会社

## 本社工場

所在地:長野県上伊那郡辰野町大字小野795-1  
 主要生産品目:アルミ樹脂積層複合板・機能面材  
 設立年月:1966年6月  
 敷地面積:20,470㎡



本社工場

## 関東工場

所在地:茨城県牛久市桂町2220-3  
 主要生産品目:アルミ樹脂積層複合板・機能面材



関東工場

## 活動報告

### 森林保全活動

2011年に長野県辰野町と締結した森林(もり)の里親協定の一環として、毎年、森林整備体験活動を実施しており、2016年度は4月に辰野町のしだれ栗森林公園で実施しました。第6回目となる今回は総勢58名が参加し、森林の除伐作業を行いました。また、この活動は2016年6月5日に長野県において開催された第67回全国植樹祭の応援イベントに承認され、全国植樹祭のPRにもなりました。



2016年4月 第6回森林整備体験活動の参加者

### 小集団活動の継続

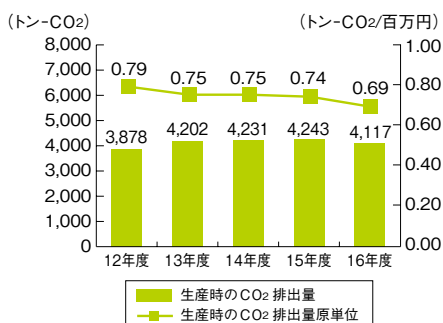
2001年1月よりスタートした社内改善活動である小集団活動は、2016年で丸15年を迎えました。小集団活動では、安全衛生の取り組みや不良率の削減(品質改善並びに省資源の推進)、省エネルギーの推進、環境配慮型製品の上市等、各部門で目標を設定し、目標達成に向けて活動を行っています。今後も小集団活動を継続し、安全衛生意識、品質意識、環境意識向上につなげていきます。

### 安全運転の取り組み

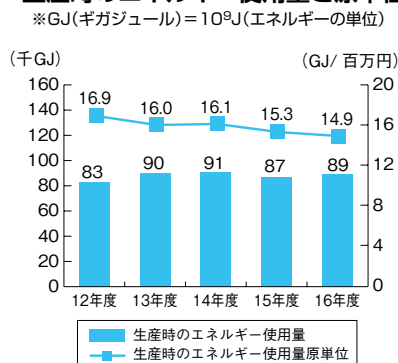
マイカー安全運転委員会を設置し、自動車通勤者の安全運転・交通事故防止に取り組んでいます。毎年、運転記録証明書を取得して5年以上連続無事故・無違反の従業員を表彰しており、2016年度は56名が表彰されました。また、自動車安全運転センター長野県事務所より優秀安全運転事業所として5年連続となる銅賞を受賞しました。これからも事故ゼロ・違反ゼロを目指して、安全運転に取り組みます。

## 主要な環境パフォーマンスの推移

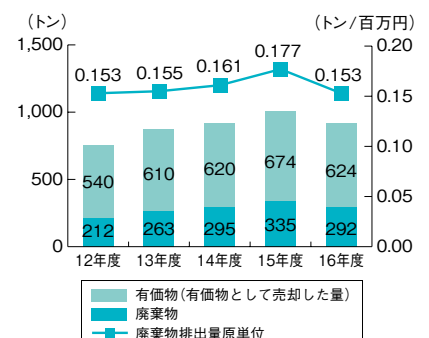
### 生産時のCO<sub>2</sub>排出量と原単位



### 生産時のエネルギー使用量と原単位



### 廃棄物排出量と原単位



# サイト レポート

## サンエイポリマー株式会社

所在地:山口県岩国市周東町祖生6370  
 主要生産品目: 梱包用結束バンド、包装用フィルム  
 設立年月: 1970年5月  
 敷地面積: 23,453㎡



### 環境への取り組み

#### リユースカンによるゴミ減量への取り組み

紙管の代わりにリユース可能なプラスチックコアを採用することでゴミを減量する環境にやさしい紙管レス梱包用バンドです。ご使用中の梱包機にそのまま装着可能です。

### リユースカン



#### リユースカンの回収方法



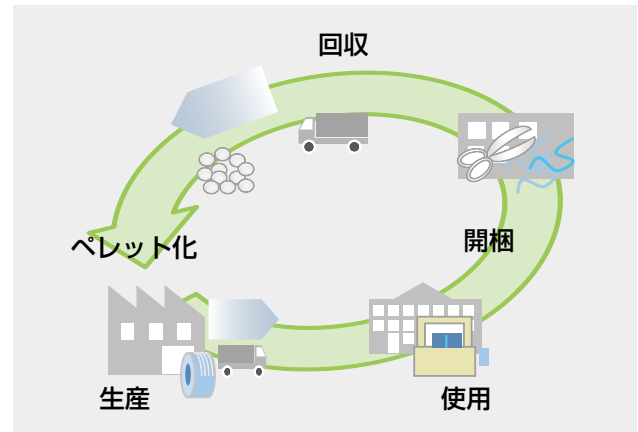
リユースカンは専用回収箱で回収、再利用できる仕様、強度としています。嵌合部を1ヵ所外すことで輸送効率を向上させ、再利用時の組立も容易としています。またリユースカンは3枚1セットですが、1枚が破損しても、差し替えることで繰り返し使用できます。

#### リサイクルへの取り組み

破砕機を導入し、回収バンドや生産過程で生じる工場内ロスなどを破砕・再生し、再生原料として活用することで、省資源・廃棄物削減に向けてリサイクルの取り組みを推進しています。



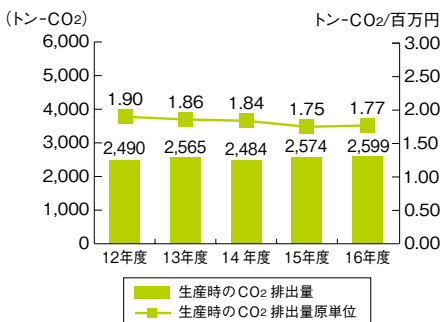
再生原料を活用した梱包用バンド



梱包資材 リサイクルシステムのフロー

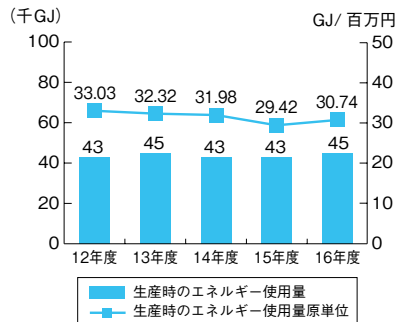
### 主要な環境パフォーマンスの推移

#### 生産時のCO<sub>2</sub>排出量と原単位

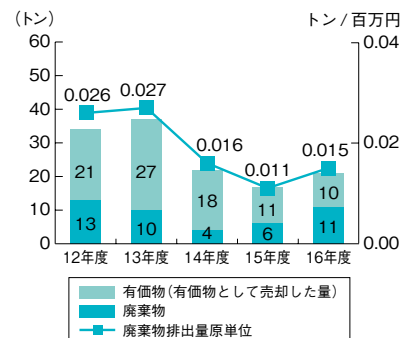


#### 生産時のエネルギー使用量と原単位

※GJ(ギガジュール)=10<sup>9</sup>J(エネルギーの単位)



#### 廃棄物排出量と原単位





# 日本ライナー株式会社

本社所在地: 東京都江東区新大橋1丁目8番11号

主要営業品目: 道路付属施設等の設計、施工、販売(路面標示・樹脂舗装・道路安全施設・構造物メンテ)

設立年月: 1965年8月

## 『安全・円滑・快適』な道づくりを目指して

日本ライナー(株)は、社会インフラなどに必要な機能“安全・円滑・快適”を整備拡充のビジネスを通じて、社会に貢献します



### 環境への取り組み

#### 環境製品

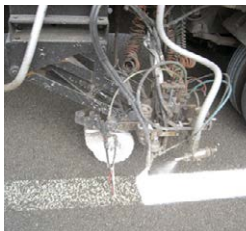
環境にやさしい製品の開発、販売により環境負荷の低減と減災・防災に取り組んでいます。

路面標示材(水性)

#### ロードライン マーキュリー



VOC(揮発性有機化合物)を大幅に低減させた、地球環境にやさしい塗料です。



#### 遮熱性舗装工事



近赤外線を効率的に反射することで、路面の蓄熱を抑え、路面温度の上昇を抑制します。

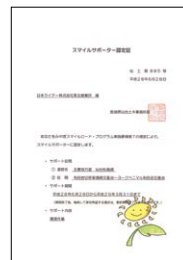
#### コンクリートはく落防止工事



既設高架部の安全を確保し、施設利用の長寿命化を行う補修工法で、廃棄物低減、無駄な工事の低減によるCO<sub>2</sub>削減に貢献します。

### 環境・美化運動の実施

宮城県が管理する道路や河川等におけるボランティア活動を支援する「スマイルサポーター」の認定を受け、2016年度より仙台松島線の認定区間において年4回の清掃活動を行っています。今後もこのような活動を継続し、地域への環境貢献に取り組んでいきます。



スマイルサポーター認定書と活動の様子

## TOPICS 「EE東北'16」へ出展

宮城県で開催されました「EE東北'16」に出展しました。「EE東北」は、建設事業に係わる新材料、新工法、その他時代のニーズに対応して開発された新技術を公開し、その普及を図ることにより、さらに新たな技術開発の促進と、良質な社会資本の整備を通じて、地域社会の発展に寄与することを目的とする展示会です。積水樹脂(株)と日本ライナー(株)の共同により、防災・安全製品を多数出展し、多くの方にご来場いただきました。



展示会の様子

## サイト レポート

### Sekisui Jushi Strapping B.V. (オランダ)

所在地: Ringweg 50, Industriepark Roerstreek Noord 7866 6045  
JL Roermond The Netherlands

主要生産品: 梱包用結束バンドの製造  
設立年月: 1974年1月 敷地面積: 30,000㎡



Sekisui Jushi Strapping B.V.

#### 活動報告

#### 省エネ・廃棄物削減への取り組み

押し成形機などの生産設備を順次インバーター式に更新しています。また、工程を改善することで、生産設備立上げ時のロスを低減するなど、消費電力の低減・廃棄物削減活動を継続して行っています。

#### 印刷バンド生産ラインの多本取り化

主力製品である印刷バンドの生産対応力強化、ならびにインク、シンナー等の使用量削減による環境負荷低減を目的とし、新型印刷機による多本取り化設備投資を実施しました。本設備投資により、納期短縮が可能となるだけでなく、大幅に薄型化された印刷版ロールにより、インク、シンナーの使用量を約30%削減することが可能となりました。

### Summit Strapping Corporation (フィリピン)

所在地: Phase II Lot 11 Carmelray Industrial Park Canlubang,  
Calamba, 4027 Laguna, Philippines

主要生産品: 梱包用結束バンドの製造・販売  
設立年月: 1997年3月 敷地面積: 31,600㎡



Summit Strapping Corporation

#### 活動報告

#### バナウエ棚田群の復元活動

バナウエの棚田群とはフィリピン・ルソン島のコルディエラ山脈にある棚田群です。世界遺産では1995年にコルディエラの棚田と登録されています。2000年前に作られた棚田が現代化の波にのまれ存続の危機にさらされており、その復元活動に参加し自然環境保護に貢献しています。



復元活動の様子

#### 安全衛生活動

台風や地震が多いフィリピンでは年2回、消防・避難訓練とともに災害救助や応急処置のセミナー・トレーニングを実施しています。継続することにより、安全衛生活動の強化に取り組んでいます。



避難訓練や緊急時対策のセミナー・トレーニングの様子

# Sekisui Jushi(Thailand) Co.,Ltd. (タイ)

所在地:700/743 Moo 1 Amata Nakom Industrial Estate,Tambol Panthong  
Amphur Panthong, Chonburi 20160,Thailand

主要生産品目:自動車部品関連製品の製造・販売及び射出成形金型の製造・加工・販売

設立年月:2004年1月 敷地面積:32,000㎡



Sekisui Jushi (Thailand) Co.,Ltd.

## 活動報告

### マングローブ植林活動

マングローブは、熱帯・亜熱帯地域の河口汽水域の塩性湿地に生い茂る森林のことで、世界でも東南アジアにおける分布が最大です。2011年度に開始された積水化学工業(株)主催のマングローブ植林活動も2016年度で第6回目を迎え、従業員とその家族が参加しました。

マングローブは大きく成長するのに非常に時間がかかる植物で、人の背丈くらいまで成長するのに20~30年かかります。継続は力なりをモットーにこれからも地球環境保全につとめていきます。



植林活動の参加者

## DATA

### 海外事業所の環境負荷データ

	Sekisui Jushi Strapping B.V. (オランダ)					Sekisui Jushi (Thailand) Co.,Ltd (タイ)				
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
CO <sub>2</sub> 排出量(トン)	3,160	3,192	3,226	3,276	3,145	2,862	2,742	2,630	2,799	2,640
廃棄物排出量(トン)	30	40	35	38	43 <sup>※</sup>	200	190	256	222	206

※2016年度廃棄物排出量増加の要因:生産量増加に伴う品種替えロスなどの影響により増加しました。

	Summit Strapping Corporation (フィリピン)				
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
CO <sub>2</sub> 排出量(トン)	2,170	2,140	1,737	1,234	1,313
廃棄物排出量(トン)	40	47	40	27	15

# 社会性報告

これからも社会から信頼され続ける企業であるために

## コミュニケーション活動 36ページ

ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションをCSR活動に活かしています

- ・工場見学会の実施
- ・決算説明会(IR)の実施
- ・グローバルなコミュニケーション など

## 社会貢献活動 37ページ

様々な社会貢献活動を通して、社会との絆を深めていきます

- ・地域社会への貢献  
(環境・美化運動、地域の行事への参加・協賛)
- ・交通遺児育英会への寄付を継続
- ・BOOK MAGIC ・TABLE FOR TWO など

## 従業員と社内風土 39ページ

従業員と会社がともに成長できる組織風土づくりにとめています

- ・人権の尊重
- ・「働き方改革」の実現に向けた取り組み
- ・従業員の持続的な成長を促す育成制度
- ・女性の活躍推進への取り組み など

## 労働安全衛生活動 41ページ

従業員が健康で安全に事業活動を推進できるよう、職場環境づくりに取り組んでいます

- ・全社を挙げての安全衛生活動
- ・事業所間における安全情報の共有・改善
- ・心身の健康管理の推進
- ・化学物質リスクアセスメントへの取り組み など

## 品質管理活動 42ページ

品質管理委員会を設置し、製品の品質向上に取り組んでいます

- ・品質マネジメントシステム体制
- ・製品品質の評価・改善
- ・品質情報の共有化
- ・PL事故予防 など

## 経営基盤の強化 43ページ

経営基盤であるコーポレートガバナンス、コンプライアンスなどの強化をはかっています

- ・コーポレートガバナンス体制、主な取り組み
- ・コンプライアンス体制、主な取り組み など

## コミュニケーション活動

# ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションをCSR活動に活かしています

### 地域の皆様とのコミュニケーション

#### 工場見学会の実施

地域の皆様に工場の活動や環境への取り組みなどを理解していただくために、各生産事業所において工場見学会、製品説明会、職場体験を随時実施しています。



東北積水樹脂(株)における職場体験の様子



滋賀積水樹脂(株)における職場見学の様子

### 株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

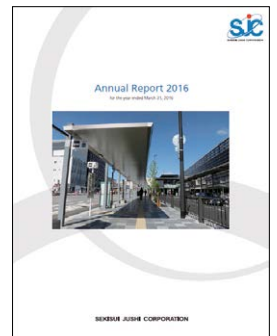
#### 決算説明会(IR)の実施

当社は、証券アナリスト、ファンドマネージャーなどの機関投資家の皆様に対する決算説明会を年2回開催しています。代表取締役より、決算内容や中期経営計画の進捗状況などについての説明を行い、機関投資家の皆様からは、当社グループの今後の事業展開について、たくさんのご質問をいただきました。

### ステークホルダーの皆様への情報発信

#### アニュアルレポートの発行

海外のステークホルダーの皆様へ財務情報や主要なCSR活動の情報を提供するため、アニュアルレポートを毎年発行しています。



## TOPICS グローバルなコミュニケーション

グローバル市場で積水樹脂ブランドをより認知していただくために、欧州・東南アジアで開催された国際的な展示会に積極的に出展し、多くの来場者の方々に興味をもっていただきました。

#### 「Kメッセ 2016」



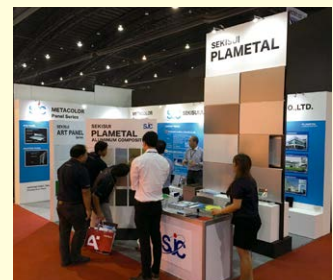
プラスチック・ゴムの世界最大の展示会  
開催地: ドイツ・デュッセルドルフ

#### 「Intertraffic Amsterdam」



道路交通インフラの世界最大の展示会  
開催地: オランダ・アムステルダム

#### 「Architect 2016」



ASEAN最大規模の建築建材展  
開催地: タイ王国・バンコク

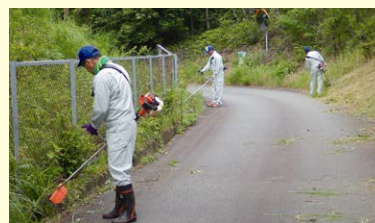
地域社会への貢献

グループ各社で展開する環境・美化運動

かねてより、積水樹脂グループでは、各生産事業所において、事業所近辺の環境・美化活動を定期的に行っています。この活動により、地域社会の美化に貢献することとあわせて、当社グループの従業員が地域社会とのかかわりの大切さを意識する良い機会となっています。

■ 2016年度 環境・美化運動の実績

- ・ 滋賀積水樹脂(株) (地域清掃活動)
- ・ 土浦つくば積水樹脂(株) (霞ヶ浦・北浦地域清掃活動、筑波南桂工業団地周辺清掃)
- ・ 北陸積水樹脂(株) (道路里親制度活動)
- ・ 広島積水樹脂(株) (工業団地内クリーン活動)
- ・ 積水樹脂ブラメタル(株) (河川清掃活動、地域清掃活動)
- ・ 日本ライナー(株) (定禅寺通り清掃活動、スマイルサポーター活動)
- ・ エスジェイシー寿(株) (事業所周辺清掃活動)
- ・ 積水樹脂産商(株) (事業所周辺清掃活動)
- ・ ロードエンタープライズ(株) (地域清掃活動)
- ・ 積水樹脂(株) 東北支店 (定禅寺通り清掃活動)



エスジェイシー寿(株)における清掃活動の様子



日本ライナー(株)におけるスマイルサポーター活動の様子

地域の行事への参加・協賛

各事業所が立地する地域で行われている行事に参加・協賛することで、地域社会とのコミュニケーションを図っています。

■ 主な地域行事への協賛

- ・ 牛久市かっぱ祭り (茨城県)
- ・ 牛久市シティマラソン (茨城県)
- ・ かかし村祭り (宮崎県)
- ・ 辰野町ほたる祭り (長野県)
- ・ 辰野町さくら祭り (長野県)
- ・ 美しい湖国をつくる会 (滋賀県)
- ・ ふれあい東城まつり (広島県)

地域の小学生に「反射シール」を寄贈

当社の関係会社である東北積水樹脂(株)は、交通安全製品に携わる企業として、通学路での交通事故の防止を目的に、2013年から継続して同社が立地する宮城県柴田郡柴田町内の小学生を対象に、「反射シール」を寄贈しています。この「反射シール」は、同社が道路標識などの交通安全製品を製造する際に発生する端材を加工し、作製したものです。



かばんや自転車などに貼ることで、夜間の交通事故を防止します。

## 事業と関連する社会貢献活動

### 「交通遺児育英会」への寄付を継続

交通安全に携わる企業として、保護者が道路上の交通事故が原因で亡くなったり、重度の後遺障害のため、経済的に修学が困難になった子供たちを支援する「公益財団法人 交通遺児育英会」に対し、車線分離標「ポールコーン」の収益の一部を寄付する取り組みを2011年より継続して行っています。



ポールコーンガイド

継続的な取り組みをご評価いただいています

#### ■ 褒状及び感謝状受賞歴

- ・ 2012年 褒状受賞
- ・ 2013年 褒状、感謝状受賞
- ・ 2014年 褒状、感謝状受賞
- ・ 2015年 感謝状受賞
- ・ 2016年 感謝状受賞

## 気軽に取り組むことができる社会貢献活動

### 「BOOK MAGIC」への参加

当社の大阪本社では、2011年8月から、「BOOK MAGIC」を定期的に行っています。「BOOK MAGIC」とは、不要な本やCDを売却し、その売上をNPO法人JENに寄付することで開発途上国の教育サポートプログラムに役立ててもらう取り組みです。



JENからの感謝状

### 「TABLE FOR TWOプログラム」への参加

当社の大阪本社及び近畿・北陸支店は、「TABLE FOR TWOプログラム」に参加しています。対象となる食事や飲料を購入することにより、購入金額の一部をTABLE FOR TWOを通じて、アフリカの子供たちの給食として、気軽に寄付することができます。



## 従業員と会社がともに成長できる 組織風土づくりにつとめています

### 人権を尊重した企業経営

#### 人権の尊重

企業の根幹をなすのは「ひと」であり、積水樹脂グループは企業活動において、社内外を問わずステークホルダーの基本的な人権を尊重します。多様な人材の多様な価値観を認め合い、出生、国籍、人種、信条、性別、障がい、性的少数者(LGBT)などを理由とした差別や偏見のない社会の実現に向けて、人権課題に関する研修を実施するなど啓発活動に取り組んでいます。

#### 健全な労使関係

各事業所において労務委員会を定期的開催し、従業員の意見・要望が活かされるようつとめています。また、全従業員を対象に仕事のやりがい、職場環境や人事制度に対する「自己申告」を実施し、寄せられた声から、組織の持つ強み・弱み、改善点を明らかにし、各種制度や施策に反映させています。

### 快適な職場環境づくり

#### 「働き方改革」の実現に向けて

ワーク・ライフ・バランスの観点から仕事と家庭との両立支援を進めることにより、従業員は持てる能力を最大限に発揮し、仕事の成果と会社全体の活力を生み出します。当社グループでは、「働き方改革」の実現に向けて、長時間労働撲滅に向けた取り組みを推進するとともに、育児・介護と仕事の両立支援のための取り組みを進め、女性や高齢者をはじめとする多様な人材が健康でいきいきと働ける組織風土ならびに職場環境づくりを積極的に推進しています。

#### 長時間労働撲滅に向けた取り組み

政府の方針として「働き方改革」が推進されるなか、当社グループとしても業務効率化・生産性向上への取り組みを推進しています。また、従業員の心身の健康保持・増進の実現に向け、週2日以上定時退社の実施や20時以降の残業禁止、パソコンの使用時間制限を設けるなど、長時間労働撲滅に向けた取り組みを2014年度より継続して実施しています。

#### 障がい者雇用

障がいのある方への雇用機会拡大と職場定着を目指し、障がい者と職場が相互に協力して能力が発揮できる環境を、今後も継続して整えていきます。

#### 定年後の再雇用制度

定年退職者を対象に65歳まで再雇用する制度を設けています。働く意欲があれば、培ってきた知識・技術・能力を十分に活かすことができ、再雇用者、会社の双方にメリットがあります。また、定年後はゆとりある生活をしたという従業員の声を尊重し、勤務日数や時間を選択できる「サムタイム勤務制度」も設けています。

### TOPICS

#### 「社内親睦会」活動報告



各事業所の慰安旅行の様子



当社グループには従業員同士が親睦を深める親睦団体があります。職場をより一層活性化させることを目的として、事業所ごとにさまざまな親睦イベントを開催しています。



## 人材育成

### 従業員の持続的な成長を促す育成制度

#### 営業研修・技術者研修の開催

「事業活動に資する人材育成を目指した教育制度を実施し、従業員のキャリア形成を支援する」という方針のもと、製品知識の向上並びに計画的な技術伝承を目的とした「営業研修」・「技術者研修」を随時開催しています。

研修では若手従業員だけでなくベテラン従業員など多様な人材が合同で参加しており、情報を共有化し、互いに刺激し合うことで、知識・能力・経験を備えた人材の育成を進めています。

#### 個人目標を明確化した「個」の強化の実施

従業員の成長が会社の成長につながるという考えのもと、半期に1度、個人毎に挑戦的な目標を設定し、その達成に向けた取り組みを実践することにより「個」の強化を図っています。目標が達成できるよう、上長との密なコミュニケーションや、PDCA(Plan-Do-Check-Action)実践の徹底を進めています。

## 従業員・組織の活性化

### 従業員一人ひとりがやりがいと意欲を持って仕事に取り組む企業風土

#### 社内公募制度

当社グループには、“自ら手を挙げて”チャレンジできる「社内公募制度」があります。意欲ある従業員へのチャンスの提供と人材の適材適所を目的としたもので、公募部署が求める人材を広く社内でも募り、従業員は自由に応募することができます。

#### グローバル人材の育成

海外事業の持続的成長に向け、2012年度より継続して「海外研修」を実施しています。多様な価値観を認め合い、自ら考えて行動する主体性を育てることを目的とし、国際舞台で活躍したいと考える従業員を対象に3ヵ月から6ヵ月の期間、ヨーロッパやタイなどの海外拠点にて研修を行っています。また、国内においては、グローバル人材の育成基盤の構築を目的とした「SJC英語教室」を2014年度より継続して開催しています。



研修先(左: Sekisui Jushi Europe Holdings B.V.)  
(右: Sekisui Jushi (Thailand) Co., Ltd.)での様子

#### 社内表彰制度

当社グループでは、特に顕著な業績や実績をあげた従業員に対し、その功労と功績を称え毎年11月の創立記念日に表彰を行なっています。



創立記念業績表彰式の様子

### 女性の活躍推進への取り組み

企業の持続的発展のため、また働き方改革の実現に向けた取り組みとしても、女性がいきいきと活躍できる組織風土づくりが極めて重要と考え、女性総合職採用の拡大や育児・介護等と仕事の両立を支援できる環境づくりを進めています。



#### 女性総合職採用拡大への取り組み

女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画で、総合職の新卒採用者に占める女性比率を15%以上に定めています。実績として、2016年度18%、2017年度20%で推移しており、今後も社内で活躍する女性総合職の紹介や学校と連携し学生に働きかけを行うなど積極的な取り組みを展開していきます。

#### 総合職・一般職コース転換制度

女性の活躍を推進する施策のひとつとして、2013年よりコース転換制度を導入しています。主に定型業務やサポート業務を行う一般職(地域限定)で入社したとしても、能力と向上心があれば、企画、営業、研究開発等を行う総合職(全国転勤あり)への転換に応募できる制度です。

# 従業員が健康で安全に事業活動を推進できるよう、 職場環境づくりに取り組んでいます

## 積水樹脂グループ安全衛生方針

積水樹脂グループ全従業員が健康で安全に事業活動を推進できるよう、職場環境づくりに取り組みます。

### 指針 1

全従業員が  
「安全最優先」のもと  
行動します。

### 指針 2

労働安全衛生に関連する  
法令及び各事業所で規程される  
ルールを遵守します。

### 指針 3

安全衛生活動の  
継続的改善に努めます。

## 主な取り組み

### 全社を挙げての安全衛生活動

当社グループ全社を挙げて労働災害の撲滅に取り組んでいます。2013年度より毎年、夏期及び年末年始無災害運動を展開し全従業員への安全意識の向上を図るとともに、場内パトロール、熱中症予防、防火点検等を通じて安全活動の強化を行っています。



積水樹脂グループ共通  
年末年始無災害運動  
ポスター

### 事業所間における安全情報の共有・改善

主要生産事業所を対象に2013年度より安全担当者による安全会議を毎月実施しています。この会議で各事業所の安全情報を共有し、好事例の水平展開やヒヤリハット・不具合部位の総点検・改善などを実施し、労働災害の未然防止に役立っています。

### 心身の健康管理の推進

全ての従業員が健康を維持していけるように、年1回の法定検診、35歳以上の従業員には法定項目に加え、より詳細な検査項目での健康診断を実施しています。また、保健師による定期的な健康相談や、生活習慣病の予防・改善を目的としたセミナーを実施するなど、従業員の健康維持・増進を支援しています。

### 化学物質リスクアセスメントへの取り組み

労働安全衛生法の改正により、2016年6月1日から、化学物質のリスクアセスメントが義務付けられました。当社グループでは、同法の施行に先立ち、全社共通の「化学物質リスクアセスメントガイドライン」を策定し、リスクアセスメントの普及を行っています。

## TOPICS

### 安全表彰「宮城労働基準協会会長賞」受賞

東北積水樹脂(株)が労働安全衛生活動への積極的な取り組みを認められ、2017年7月6日に宮城労働基準協会会長賞を受賞しました。労使協力しての安全意識の向上と改善活動の成果です。



## 品質管理活動

お客様に満足していただける製品作りのため、品質管理委員会を設置し、製品の品質向上に取り組んでいます

### 推進体制

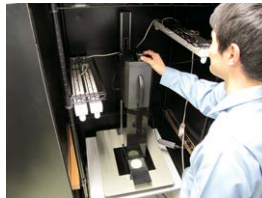
#### 品質管理委員会を設置しています

各生産事業所ごとに品質管理委員会を設置しています。この委員会では、品質改善やお客様に満足していただける製品作りのため、年度ごとに品質目標、重点実施項目、推進計画を定め、実施状況の管理・フォローを行っています。

### 主な取り組み

#### 製品品質の評価・改善

大規模試験走路「道夢道」には、「走踏試験機」や「落錘試験機」、「音響測定試験棟」などの大型試験設備があります。製品開発では、これらの試験機を活用し、実物での製品安全性や耐久性の検証を行い、製品品質の評価・改善を行っています。またR&Dプラザでは、各種分析装置、耐久性試験機等を用い、素材レベルの性能を評価しています。2016年度は、新型輝度計を導入し、避難誘導標識等に使用される蓄光材料の暗所での明るさ(りん光輝度)を測定し性能評価を進めています。

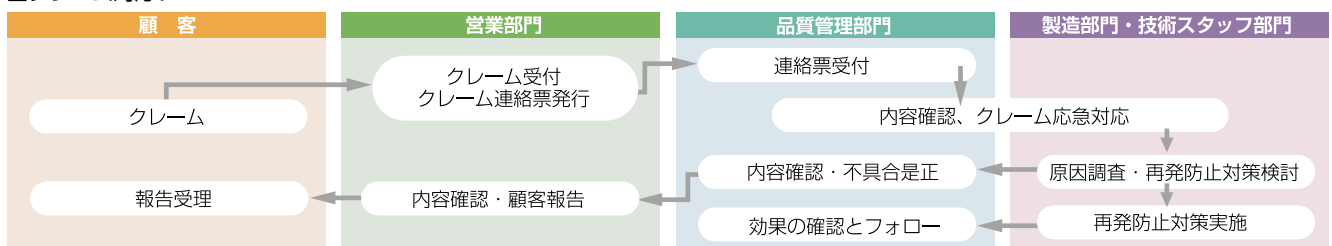


新型輝度計による「りん光輝度測定」

#### クレームへの対応と再発防止

お客様からのクレームは、各営業部門にて受け付けた後、品質管理部門、製造部門、技術スタッフ部門が協力して再発防止のための調査・実施を行っています。再発防止対策の実施後は、効果の確認を行い対策の妥当性を検証しています。

#### ■クレーム対応フロー



#### 品質マネジメントシステム体制

主要生産事業所では、ISO9001に基づく品質マネジメントシステムを構築し、認証登録を継続しています。

データ編：ISOの認証取得状況は50ページ

#### 品質情報の共有化

クレーム発生状況やPL情報については、社内イントラネットを活用し、品質管理情報として共有化しています。また、公的な認証等を取得している製品の情報についても開示しています。

#### PL事故予防

PL法は、製造物の欠陥によって、人の生命、身体、財産に被害が生じた場合に、製造業者に損害賠償責任を課するものです。PL事故予防のために、以下の取り組みを行っています。

##### (1) 製品開発段階での危険性予測

製品に潜在的に存在する危険性を製品開発の各段階でチェックしています。

##### (2) 取扱説明書・カタログのPLチェック

「取扱説明書作成ガイドライン」を整備し適切な取扱説明書の作成に役立てています。また、取扱説明書・カタログの表示を事前にチェックし、使用者へ正しい安全情報を提供することにつとめています。

## 経営基盤 の強化

# 経営基盤であるコーポレートガバナンス、 コンプライアンスなどの強化をはかっています

## コーポレートガバナンス

### コーポレートガバナンスの基本的な考え方

当社は、激変する経営環境に対応するためには効率的な経営が必要であり、そのための経営の透明性向上、意思決定の迅速化を進めるにはコーポレートガバナンスの確立が重要であると認識し、コーポレートガバナンス・コードのそれぞれの原則を踏まえ、コーポレートガバナンス体制のさらなる充実につとめています。

## コーポレートガバナンス体制

### 取締役会・取締役

経営責任を明確にするため、取締役の任期を1年としています。また、社外取締役3名を選任し、取締役会における監督機能の強化と意思決定の強化をはかっています。

### 監査役会・監査役

監査役会は、5名の監査役で構成しており、うち3名が社外監査役です。

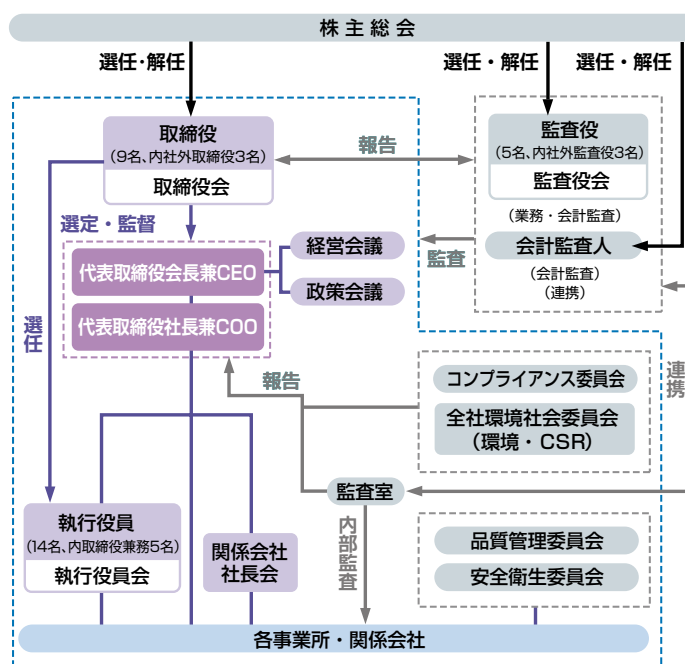
### 経営会議

原則、常勤取締役及び議長から指名された執行役員にて構成され、常勤監査役が出席のもと毎月1回以上開催し、経営上の重要事項及び会社の業務執行方針の審議・意思決定、並びに取締役会付議事項の事前審議を行っています。

### 執行役員会

原則、執行役員にて構成され年6回開催し、業務執行上の重要事項の審議、取締役会並びに経営会議決定事項の周知及び執行役員の執行状況の報告、その他役員相互間の情報共有・討議を行っています。

当社ホームページ「コーポレートガバナンス」のページにて基本方針など関連事項を公開しています。  
[http://www.sekisuijushi.co.jp/shareholder\\_investor/governance/](http://www.sekisuijushi.co.jp/shareholder_investor/governance/)



2017年6月29日現在

## コーポレートガバナンスに関する 主な取り組み

### (2016年度)

- ・ 2016年6月の株主総会決議により社外役員比率を高めました。  
取締役: 9名(うち社外2名) ⇒ 9名(うち社外3名)  
監査役: 4名(うち社外2名) ⇒ 5名(うち社外3名)

### (2017年度)

- ・ 2017年6月の定時株主総会より、役員選任議案において候補者全員の「選任理由」を記載することとしました。

## コンプライアンス

### コンプライアンスの基本的な考え方

積水樹脂グループは、コンプライアンスを「法令や社内ルールを守るとはもちろん、企業倫理に基づき誠実に行動すること」ととらえ、一人ひとりが、日々の業務の中でコンプライアンスを実践しています。

### コンプライアンス体制

#### コンプライアンス委員会

当社グループのコンプライアンスは、「コンプライアンス委員会」が統括・推進しています。

#### コンプライアンス責任者

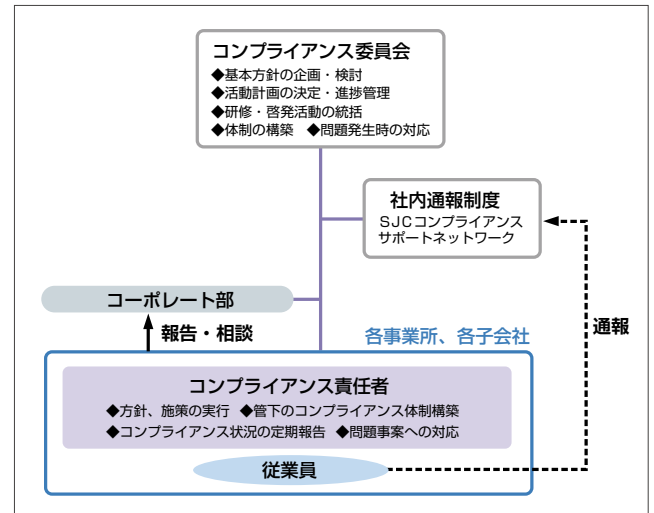
各事業所および子会社に「コンプライアンス責任者」を置き、体制の維持・強化をはかっています。

#### コンプライアンス定期報告

コンプライアンスに関する問題の未然防止・早期発見をはかるとともに、全社的な施策の検討・実施に活用するため、「コンプライアンス委員会」が各事業所および子会社の「コンプライアンス責任者」から活動状況や課題等の報告を定期的に受ける体制を構築しています。

#### 社内通報制度

不正、違法、反倫理行為の早期発見と迅速な是正のために、当社グループの全役員・従業員が利用できる「社内通報制度」を導入しています。なお、2015年から「社内通報制度」の外部の受付窓口(弁護士)を新設しました。



## TOPICS コンプライアンス体制の強化に向けた取り組み

### 「コンプライアンス解説ハンドブック」を全役員・従業員に配布

当社グループでは、「コンプライアンス解説ハンドブック」をグループの全役員・従業員に配布し、意識の啓発につとめています。2016年度はハンドブックの内容を全面改訂し、改めて周知しました。



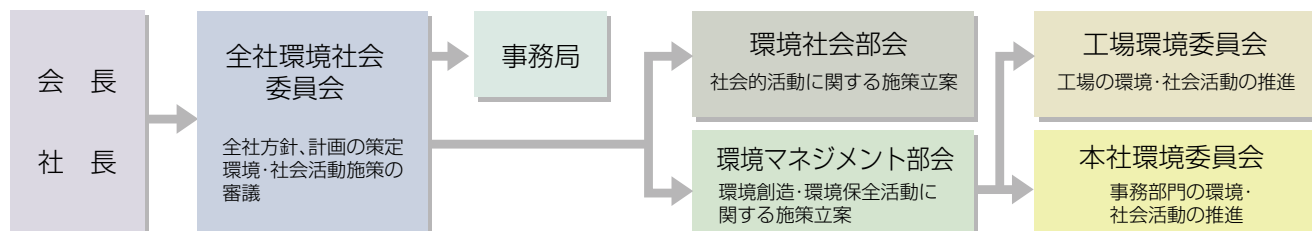
### 標的型メール事故防止訓練の実施

最近急増している標的型メールによる情報漏えい事故を未然に防ぐため、標的型メールの受信を想定した訓練をグループ全体で実施しています。



## 環境推進体制

環境活動にあわせて社会的活動を総合的に推進するため、環境マネジメント部会において環境創造・環境保全活動に関する施策を、環境社会部会において社会的活動に関する施策を立案する体制としています。立案された施策は全社環境社会委員会において審議・決定され、施策は各事業所に伝達されて推進・実行されます。



## 環境活動のあゆみ

1998年	「環境経営理念」・「環境経営方針」を制定 環境経営革新運動「JEEEP」を導入
2000年	環境経営革新運動「JEEEP」の業績優秀者を表彰する制度を開始
2001年	「環境経営推進委員会」を設置 「環境経営推進委員会」を受けて「全社環境委員会」を設置 滋賀工場、石川工場、土浦つくば工場においてISO14001の認証を取得 第1次環境3ヵ年計画を策定 地球環境調和型製品基準を制定 グリーン購入基準(事務用品)を制定
2002年	環境会計を導入 環境報告書の発行を開始 石川工場においてゼロエミッションを達成 グリーン購入基準(資材)を制定
2003年	環境社内監査を開始 紙巻(コア)のない自動梱包用結束バンド「コアレス」が平成15年度資材循環技術・システム表彰 「財団法人クリーンジャパンセンター会長賞」を受賞 滋賀工場、土浦つくば工場においてゼロエミッションを達成 第2次環境3ヵ年計画を策定
2004年	広島東城工場、積水樹脂プラメタル(株)、東北積水樹脂(株)においてISO14001の認証を取得 広島東城工場、積水樹脂プラメタル(株)、東北積水樹脂(株)においてゼロエミッションを達成
2005年	環境面のみならず、社会面への取り組みを明確にするため、従来の全社環境委員会を「全社環境社会委員会」に変更 非生産部門の環境活動強化のため、工場環境委員会と並列して「本社環境委員会」を新規に設置
2006年	第3次環境3ヵ年計画を策定
2007年	関東積水樹脂(株)、積水樹脂電子テクノ(株)、ロードエンタープライズ(株)、積水樹脂プラメタル(株)関東工場において ゼロエミッションを達成
2008年	積水樹脂産商(株)、宮崎積水樹脂(株)においてゼロエミッションを達成
2009年	積水樹脂産商(株)にてFSC認証を取得 国際生物多様性年国内委員会の活動への協賛 第4次環境3ヵ年計画を策定
2010年	中期経営計画(JEX-2013)を策定、2010年を社会貢献元年と位置づけ 各分野に対する社会貢献活動を推進 積水樹脂が、滋賀県日野町綿向生産森林組合と「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を締結
2011年	積水樹脂プラメタル(株)が、長野県上伊那郡辰野町と「森林(もり)の里親協定」を締結
2012年	北陸積水樹脂(株)が、石川県能美市、道林釜屋山林組合等と「企業の森づくり推進事業協定」を締結 第5次環境3ヵ年計画を策定
2013年	「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」への参画
2014年	生物多様性の保全の取り組みとして、滋賀積水樹脂(株)において生き物調査を開始 積水樹脂プラメタル(株)が、長野県上伊那郡辰野町と「森林(もり)の里親協定」の満期により、新たに3年間の協定を更新
2015年	積水樹脂が、滋賀県日野町綿向生産森林組合と「琵琶湖森林づくりパートナー協定」の満期により、新たに5年間の協定を更新 北陸積水樹脂(株)が、石川県能美市、道林釜屋山林組合等と「企業の森づくり推進事業協定」の満期により、新たに3年間の協定を更新 第6次環境3ヵ年計画を策定
2016年	近隣企業と、トンボを通じた滋賀湖東地域の環境保全を目的とした生物多様性保全活動を開始

## 環境会計

積水樹脂グループは環境保全活動に要した費用、それから得た環境保全効果とそれにとまなう経済効果を定量的に把握し、評価することで、より効率的な環境保全活動の推進をはかっています。環境会計の手順については、環境省の「環境会計ガイドライン」をもとに当社グループ独自の考えを加えて、共通の環境会計手順書を定めています。また、データの精度向上のために、この手順の見直しを行い、各データの算出と集計を行っています。

### ■ 環境保全コスト

(単位/百万円)

項目	分類	主な取り組み内容	2014年度		2015年度		2016年度	
			投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
(1)事業エリア内コスト	①公害防止コスト	公害防止対策	7	21	2	15	2	48
	②地球環境保全コスト	温暖化防止対策	39	63	34	145	61	156
	③資源循環コスト	資源投入量の削減 廃棄物の削減	28	86	35	106	30	181
(2)上・下流コスト		グリーン調達 地球環境調和型製品の特注設計	1	8	0	8	2	7
(3)管理活動コスト		環境マネジメントシステムの構築・運用 環境教育 緑化・美化・清掃活動	0	44	0	47	0	31
(4)研究開発コスト		地球環境調和型製品の研究・開発	12	87	12	65	9	54
(5)社会活動コスト		環境関連展示会への出展	0	0	0	1	0	1
(6)環境損傷対応コスト		土壌汚染、自然破壊等の修復	0	0	0	0	0	0
合計			87	310	84	387	104	478

(単位/百万円)

項目	2014年度	2015年度	2016年度
当該期間の投資額の総額	1,016	1,114	594
当該期間の研究開発費の総額	1,860	956	1,009

### ■ 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス	2014年度		2015年度		2016年度	
		2014年度実績	環境保全効果(2013年度との差)	2015年度実績	環境保全効果(2014年度との差)	2016年度実績	環境保全効果(2015年度との差)
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	電気使用量(kkWh)	36,130	▲ 1,429	35,553	▲ 577	34,973	▲ 580
	燃料使用量(kGJ)	111	▲ 3	124	13	112	▲ 12
生産活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	生産時のCO <sub>2</sub> 排出量(千トン-CO <sub>2</sub> )	21	▲ 1	22	1	21	▲ 1
	廃棄物発生量 有価物除く(トン)	1,153	83	1,170	17	1,277	107

### ■ 環境保全対策にとまなう実質的経済効果

(単位/百万円)

効果の内容	金額		
	2014年度	2015年度	2016年度
リサイクルによる有価物売却収入	23	15	17
省資源による費用削減	134	91	55
省エネルギーによる費用削減	7	7	2
リサイクルによる廃棄物処理費用削減	2	0	1
その他	0	0	0
合計	165	113	75

対象期間:2016年4月1日~2017年3月31日 集計範囲:対象事業所は以下のとおりです

#### ①工場

- 滋賀工場 ●土浦つくば工場 ●石川工場 ●広島東城工場

#### ②関係会社

- 積水樹脂プラメタル(株) ●東北積水樹脂(株) ●積水樹脂産商(株) ●エスジェイシー寿(株) ●宮崎積水樹脂(株)
- ロードエンタープライズ(株) ●関東積水樹脂(株) ●スペースシア(株) ●サンエイポリマー(株)
- 積水樹脂キャップアイシステム(株) ●日本ライナー(株)

#### ③上記生産事業所内に活動主体がある部門

- 各事業部の開発室 ●滋賀積水樹脂(株) ●土浦つくば積水樹脂(株) ●北陸積水樹脂(株) ●広島積水樹脂(株)
- (株)積水樹脂技術研究所 ●積水樹脂物流(株) ●オーミテック(株) ●積水樹脂電子テクノ(株)

# 第6次環境3ヵ年計画(2016~2018年度) 2016年度の実績

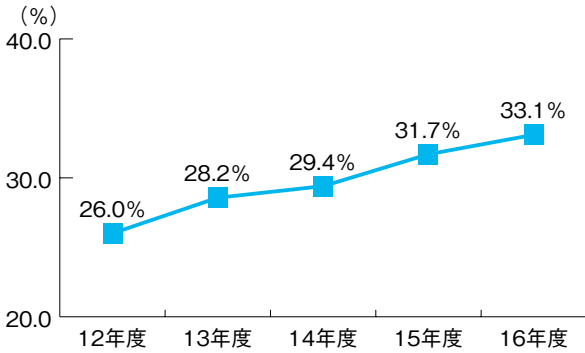
◎:達成度100%以上 ○:達成度90%以上  
△:達成度90%未満 ×:基準年より後退

取り組みの項目			第6次環境3ヵ年計画 (2018年度目標値)	2016年度実績	2016年度 目標	評価	
事業・製品による 環境貢献	地球環境調和型 製品の拡大	地球環境調和型製品の 売上拡大	地球環境調和型製品の 売上高比率35%以上	33.1%	33.0%	◎	
		地球環境調和型製品の 開発促進	地球環境調和型新製品数 平均40件/年 以上	40件	40件	◎	
事業活動における環境負荷の低減	温室効果ガス 排出の削減	国内生産事業所 (関係会社含む) ※関係会社はオフィス部門も含む	CO <sub>2</sub> 排出量を原単位 2015年度比3%以上削減	6.5%	1.0%	◎	
		海外生産事業所 3拠点 ・Sekisui Jushi Strapping B.V. ・Summit Strapping Corporation ・Sekisui Jushi Thailand CO.,LTD.	CO <sub>2</sub> 排出量を原単位 2015年度比3%以上削減	0.3%	1.0%	△	
		国内オフィス (支店営業所)	CO <sub>2</sub> 排出量 2015年度比3%以上削減	3.4%	1.0%	◎	
	営業活動による CO <sub>2</sub> 排出削減	営業車	ハイブリッド車、電気自動車 導入率90%以上	90.0%	89.0%	◎	
	省エネルギー の推進	国内生産事業所 (関係会社含む)	エネルギー使用量を原単位 2015年度比3%以上削減	5.4%	1.0%	◎	
		国内輸送時	エネルギー原単位 2015年度比3%以上削減	0.2%	1.0%	△	
	資源の 有効活用	廃棄物削減	国内生産事業所 (関係会社含む)	廃棄物排出量を原単位 2015年度比3%以上削減 (場内リサイクル除く、有価含)	1.5%増加	1.0%	×
			海外生産事業所 3拠点 ・Sekisui Jushi Strapping B.V. ・Summit Strapping Corporation ・Sekisui Jushi Thailand CO.,LTD.	廃棄物排出量を原単位 2015年度比3%以上削減 (場内リサイクル除く、有価含)	5.7%	1.0%	◎
			国内オフィス (支店営業所)	コピー用紙使用量 2015年度比3%以上削減	10.2%	1.0%	◎
	化学 削減物質	国内生産事業所	PRTR法に基づく化学物質排出量 原単位2015年度比3%以上削減	1.9%増加	1.0%	×	
生物多 様性への 配慮	環境貢献 活動	環境保全活動の推進 従業員への環境教育カリキュラムの設定 (生物多様性保全の取り組み拡大)	森林保全活動参加者:450名 (2016年度~2018年度 延べ参加人数) ・滋賀積水樹脂㈱ ・積水樹脂プラマタル㈱ ・北陸積水樹脂㈱	158名	150	◎	
			琵琶湖環境保全活動参加者:100名 (2016年度~2018年度 延べ参加人数)	50名	30名	◎	
			海外拠点における環境保全活動の実施	マングローブ植林活動(タイ) バナウエ棚田群復元活動(フィリピン)			◎
			事業所に生息する希少種の保全	希少種「ミヤマアカネ」の 保全サイン設置 人工池の希少種保全			◎
	環境コミュニケーションの拡大	自然環境保護団体との連携及び、 活動支援を継続	「国連生物多様性の10年日本委員会」 「SATOYAMAイニシアティブ 推進ネットワーク」 の協賛・参画の継続			◎	
		地域との環境コミュニケーション	各事業所における地域清掃			◎	

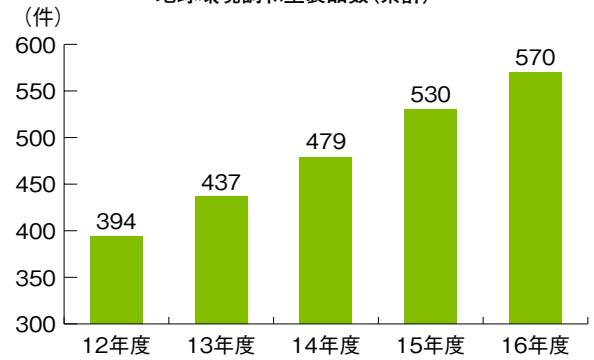


# 主要な環境パフォーマンスの推移

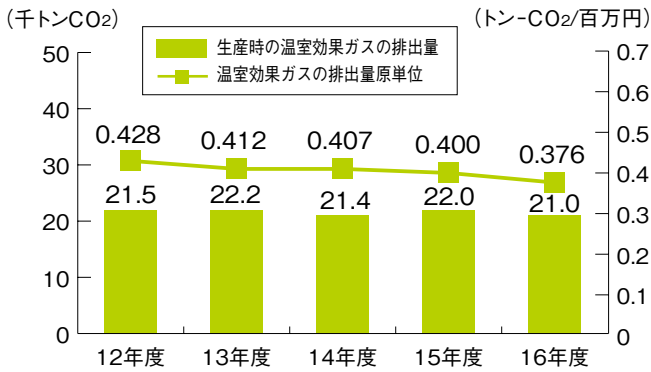
地球環境調和型製品の製品売上高比率



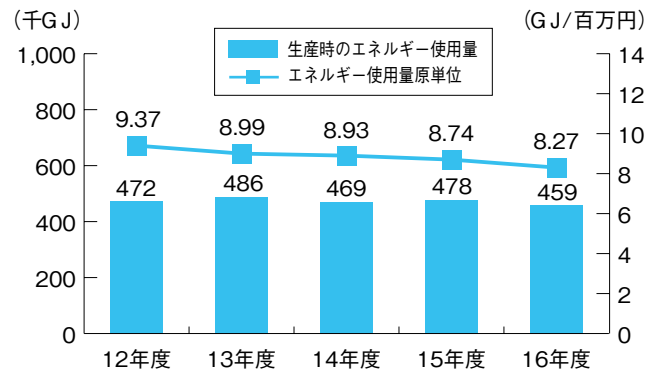
地球環境調和型製品数(累計)



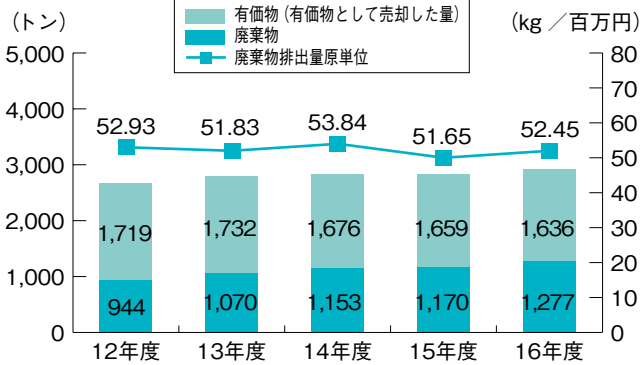
生産時のCO<sub>2</sub>排出量と原単位



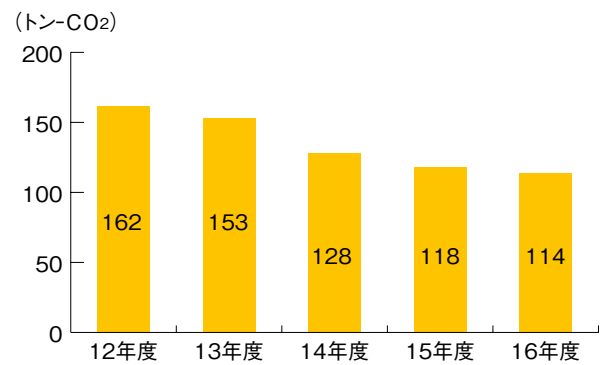
生産時のエネルギー使用量と原単位



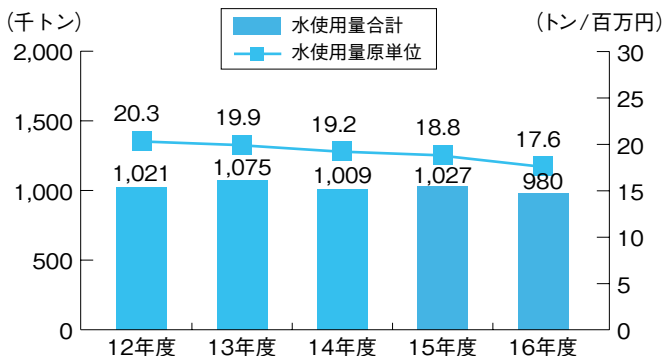
廃棄物排出量と原単位



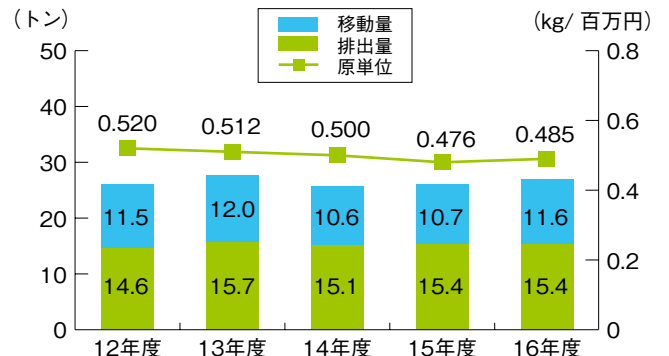
オフィスのCO<sub>2</sub>排出量



水の使用量と原単位



化学物質排出量・移動量



データ編

## 2016年度のPRTR法 対象化学物質の排出量・移動量

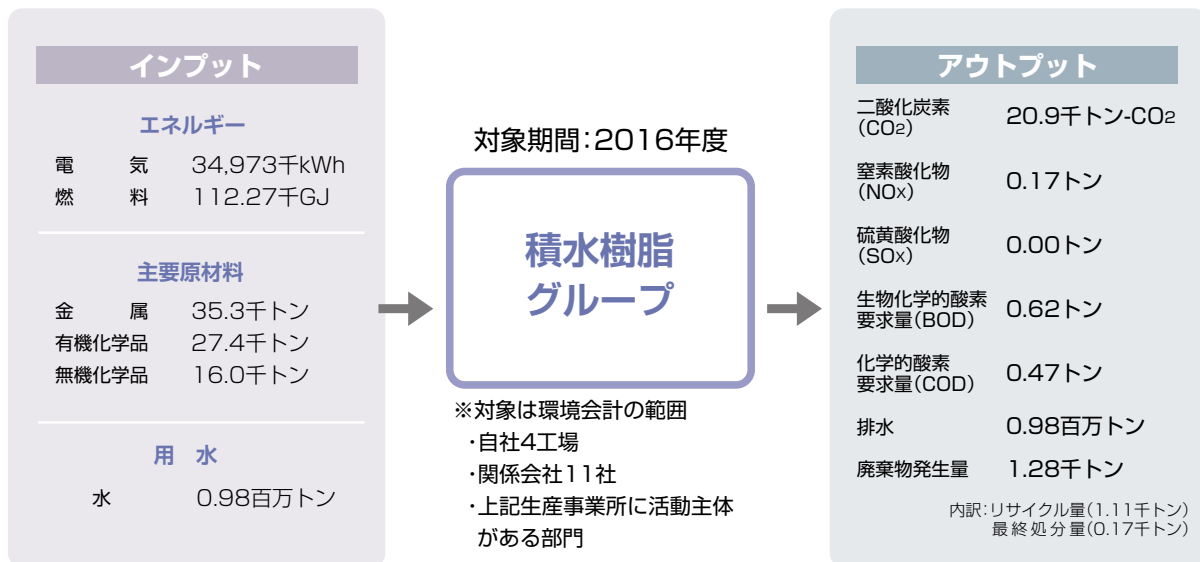
PRTR法に基づく対象物質排出量・移動量の集計結果は以下のとおりです。

PRTR対象化学物質名	単位	2016年度実績						
		取扱量	排出量			移動量		場内無害化 (※)
			大気への 排出量	公共用水域 への排出	当該事業所 における 土壌への排出	下水道への 排水の移動	廃棄物の 当該事業所の 外への移動	
総 量	トン	119.49	15.36	0.00	0.00	0.00	11.59	57.50
(内訳) ※年間取扱量 0.5 トン以上のみ記載								
キシレン	トン	33.75	5.09	0.00	0.00	0.00	2.30	26.37
エチルベンゼン	トン	32.22	3.86	0.00	0.00	0.00	2.49	25.87
フタル酸ビス (2-エチルヘキシル)	トン	19.81	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00
トルエン	トン	12.34	5.65	0.00	0.00	0.00	6.52	0.17
鉛及びその化合物	トン	11.18	0.00	0.00	0.00	0.00	0.09	0.00
1,3,5-トリメチルベンゼン	トン	5.48	0.42	0.00	0.00	0.00	0.15	4.91
6価クロム化合物	トン	2.54	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00
2,6-ジ-ターシャリ-ブチル-4-クレゾール	トン	1.19	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00

(※)場内無害化:製造プロセスにて発生した溶剤ガスを焼却分解し無害化したものです。

## マテリアルバランス

事業活動におけるエネルギー、原材料などの「インプット」、そして環境への排出量や廃棄物などの「アウトプット」をマテリアルバランスの考えに基づき環境会計の中で集計しています。



## ISO14001 認証取得状況

取得事業場名	登録年月日 登録番号	登録範囲	関連事業所
滋賀工場	2001年1月19日 JQA-EM1275	・鉄骨加工製品、塗装製品、樹脂押出成形製品、交通安全用品等、その他電子製品の設計・開発及び製造	・滋賀積水樹脂株式会社 ・積水樹脂物流株式会社 ・株式会社 積水樹脂技術研究所 ・積水樹脂株式会社 開発設計部門 ・積水樹脂電子テクノ株式会社 ・オーミテック株式会社
石川工場	2001年3月30日 JQA-EM1487	・PPバンド、ポリエステルバンド、被覆鋼管支柱及び射出成形品の製造 ・ストレッチ包装機の設計及び製造	・北陸積水樹脂株式会社
土浦つくば工場	2001年6月15日 JQA-EM1614	・路面標示材、メッシュフェンス及び手摺りの製造	・土浦つくば積水樹脂株式会社 つくば製造所 ・土浦つくば積水樹脂株式会社 土浦製造所
積水樹脂プラメタル(株)	2004年8月27日 JQA-EM4182	・建築資材、広告看板材料及び工業材料用金属、樹脂複合板の設計・開発、製造及び販売	・本社、本社工場 ・関東工場 ・東京営業所 ・大阪営業所 ・名古屋営業所
東北積水樹脂(株)	2004年12月6日 C2016-01912	・道路標識板・柱、サイン、視線誘導標等の交通安全用品の製造	
広島東城工場	2005年3月18日 JQA-EM4627	・路面標示材及び薄層カラー路面舗装材の製造 ・プラスチック擬木及び道路反射鏡の製造	・広島積水樹脂株式会社
スペースシア(株)	2006年10月10日 EC 06J0142	・全社統括業務及び組立パイプシステム製品の開発、製造、販売	

海外事業所における取得状況 ●Sekisui Jushi(Thailand) Co.,Ltd. ●無錫積水樹脂有限公司

## ISO9001 認証取得状況

取得事業所名	登録年月日 登録番号	登録範囲	関連事業所
滋賀工場	1998年12月11日 JQA-2853	・メッシュフェンス、防護柵、防音壁、街路照明柱、シェルター、交通安全用品、樹脂押出製品、標識柱、道路反射鏡、計測器(繊維製巻尺)の設計・開発及び製造	・滋賀積水樹脂株式会社 ・積水樹脂物流株式会社 ・積水樹脂株式会社 開発設計部門 ・積水樹脂電子テクノ株式会社
石川工場	1999年3月5日 JQA-3133	・PPバンド、ポリエステルバンド及びプラスチック線(エクセル線)、被覆鋼管支柱直管の設計・開発及び製造	・北陸積水樹脂株式会社
土浦つくば工場	1999年8月6日 JQA-QM3615	・メッシュフェンス、路面標示材、手摺りの製造	・土浦つくば積水樹脂株式会社 つくば製造所 ・土浦つくば積水樹脂株式会社 土浦製造所
日本ライナー(株)	2001年2月15日 MSA-QS-937	・道路付属施設(標識、遮音壁、防護柵、トンネル内装、路面標示)及び土木構造物の補修に関する設計及び施工	・品質保証部、営業本部、管理部 ・標示技術部(標示1グループ) ・北日本支店 ・東北営業所 ・関東営業部 ・中部支店 ・西日本営業部
エスジェイシー寿(株)	2002年7月26日 Q0914	・道路標識の設計、製造及び施工 ・道路付属施設(マーキング、防護柵、反射鏡)の施工	・鈴鹿営業所
積水樹脂プラメタル(株)	2003年7月25日 JQA-QMA10252	・建築資材、広告看板材料及び工業材料用金属、樹脂複合板の設計・開発、製造及び販売	・本社、本社工場 ・関東工場 ・東京営業所 ・大阪営業所 ・名古屋営業所
広島東城工場	2004年3月26日 JQA-QMA11212	・路面標示材、エポキシ樹脂を除く薄層カラー路面舗装材、プラスチック押出成形擬木、プラスチック射出成形擬木及び道路反射鏡の製造	・広島積水樹脂株式会社
東北積水樹脂(株)	2007年12月6日 C2016-01911	・道路標識板・柱、サイン、視線誘導標などの交通安全用品の製造	

海外事業所における取得状況 ●Sekisui Jushi(Thailand) Co.,Ltd. ●Sekisui Jushi Strapping B.V.  
●Sekisui Jushi Philippines Group. ●無錫積水樹脂有限公司



## 積水樹脂株式会社

本 社

〒530-8565 大阪市北区西天満2丁目4番4号 堂島関電ビル6F  
TEL:06(6365)3204 FAX:06(6365)7181  
URL: <http://www.sekisuijushi.co.jp/>

東京本社

〒105-0022 東京都港区海岸1丁目11番1号 ニューピア竹芝ノースタワー12F  
TEL:03(5400)1801 FAX:03(5400)1833

お問い合わせ先

コーポレート部

〒530-8565 大阪市北区西天満2丁目4番4号 堂島関電ビル6F  
TEL:06(6365)3288 FAX:06(6365)7181

生産技術部

〒520-2596 滋賀県蒲生郡竜王町大字鏡字谷田731-1  
TEL:0748(58)2488 FAX:0748(58)3326



当社は、「国連生物多様性の10年日本委員会」の取り組みに協賛しております。



当社は、「公益財団法人 交通遺児育英会」の活動に協賛しております。

